

「教員の勤務実態に関するアンケート」報告書

平成23年11月

名古屋市教育委員会

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	
2	調査対象期間	
3	調査対象	
	(1) 対象校種と対象者	
	(2) 校種別の抽出方法	
	(3) 抽出学校数と対象教員数	
II	調査結果の概要	1
1	教員の勤務の状況	
2	教員の量的・質的負担の原因	
III	主な調査項目の結果	4
1	教員の多忙な実態について	
2	教員の多忙感について	
3	勤務時間外の仕事時間について	
IV	教員の量的・質的負担の軽減に向けて	14
1	量的負担の軽減への取り組み	
	(1) 校務の効率化	
	(2) 教員の事務的な業務の外部化	
	(3) 部活動の在り方等の検討	
2	質的負担の軽減への取り組み	
	(1) メンタルヘルス対策の充実	
	(2) 学校での支援体制の充実	
V	資料編	15
1	集計結果	
2	自由記述の結果	
3	アンケート用紙	
4	調査用紙の記入にあたって	

I 調査の概要

1 調査の目的

教員の量的負担・質的負担に関する実態を把握し、教員が児童生徒とふれあう時間を確保することや教員の多忙感を軽減する方策について考えるための基礎資料を作成する。

2 調査対象期間 平成23年6月～7月（2か月間。なお、夏季休業中は除く。）

3 調査対象

(1) 対象校種と対象者

名古屋市立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・幼稚園より抽出した教員。（管理職は含まない。常勤講師を含み、非常勤講師は含まない。）

(2) 校種別の抽出方法

【小学校・中学校】 地域や学校の規模を勘案し、調査対象校を抽出。

【高等学校・幼稚園】 全学校（園）から対象数の教員を抽出。

【特別支援学校】 4校の養護学校より1校を抽出。

(3) 抽出学校数と対象教員数

校種	抽出学校数	対象教員数（人）
小学校	16校（各区1校）	300
中学校	8校（規模で抽出）	202
高等学校	全14校	70（各校5人）
特別支援学校	1校	83
幼稚園	全23校	46（各校2人）
合計	62校	701

II 調査結果の概要

1 教員の勤務の状況

(1) 「平日の退校は何時頃か」という設問について、教員全体では、18時台、19時台、20時台、21時以降それぞれが2割程度という結果であった。

20時以降に退校する教員の割合は、全体の4割程度という結果となった。校種別では、この割合が中学校でもっとも多く、5割を超える結果となった。（P4）

(2) 平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の時間が3時間以上に及ぶ教員の割合は、5割程度という結果であった。校種別では、中学校がもっとも多く6割を超え、次いで、小学校、幼稚園、特別支援学校、高等学校という結果であった。

(P5)

(3) 20時以降に退校する教員の割合を年齢別で見ると、20歳代では6割程度、30歳代では4割程度、40歳代では3割程度、50歳以上では2割程度という結果であり、年齢層が若いほど、退校時刻が遅いことが分かった。

また、平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の時間を年齢別で見ると、3時間以上仕事をする教員の割合は、20歳代、30歳代では6割程度、40歳代では5割程度、50歳以上は4割程度という結果であった。

退校時間帯と勤務時間外の仕事の時間数を比較してみると、どの年齢層においても、仕事の時間数の割合が上回る結果となった。また、若い年齢層ほど多くの時間を仕事に費やしていることが分かった。

(P6)

(4) 平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った主な仕事の内容としては、「教材研究・授業準備」がもっとも高く8割、次いで「提出物や成績の処理」が7割程度という結果であった。「試験問題の作成及び採点」「校務分掌に係る業務」は4割を超える結果であった。

(P7)

(5) 1か月あたり休日に2日以上出校し、仕事を行っている教員の割合は5割程度、4日以上は3割程度という結果であった。

このことから、3割程度の教員が、土曜日・日曜日のいずれかは出校し、仕事をしていることが分かった。

(P8)

(6) 休日に出勤して行う仕事の内容としては、「教材研究・授業準備」「提出物や成績の処理」が6割程度と高く、次いで「試験問題の作成及び採点」「部活動の指導」という順であった。

(P9)

平日の勤務時間外、休日とともに、「教材研究・授業準備」「提出物や成績の処理」「試験問題の作成及び採点」が割合として上位となった。

(P7・P9)

(7) 「自分の職務について忙しいと感じるか」という設問については、教員全体で「はい」が6割程度と最も高く、次いで「どちらかというとはい」が3割程度であり、あわせると9割程度という高い割合を示した。

どの校種においても9割近くかそれ以上の割合を示していることから、ほとんどの教員が「忙しい」と感じていることが分かった。

(P10)

(8) 「平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の時間」の調査結果より、階級値と度数（人数）から、仕事の平均時間を算出してみたところ、勤務時間以外の仕事時間は、およそ3時間11分という結果であった。

(P13)

2 教員の量的・質的負担の原因

- (1) 多忙であった主な原因は、「提出物や成績の処理」が6割程度、「教材研究・授業準備」が5割程度と多く、次いで「校務分掌に係る業務」「会議・打ち合わせ」「部活動の指導」「学校行事の準備」という順であった。

校種別では、幼稚園では「園(学校)行事」が6割程度、高等学校では「校務分掌に係る業務」が5割程度、特別支援学校では「会議・打ち合わせ」が4割程度と他の校種と比べ、高い割合となった。(P11)

- (2) 平日の勤務時間外の仕事内容、休日に行った仕事内容においても、1位が「教材研究・授業準備」、2位が「提出物や成績の処理」、3位が「試験問題の作成及び採点」という結果であった。(P7・P9)

また、その一方で、「教材研究や授業準備に十分な時間がとれていましたか」の設問に、「どちらかというといいえ」「いいえ」を合わせると7割程度という結果であった。(P10)

このことから、平日の勤務時間外、休日ともに、教員の本来業務である「教材研究」「授業準備」「成績処理」「試験問題作成」「採点」に多くの時間を費やしているものの、7割に及ぶ教員がこれらの業務に「十分な時間がとれていない」と感じていることが分かった。

- (3) 平日の勤務時間外の仕事内容で「部活動の指導」は、4割程度という結果であった。校種別では、高等学校では6割、中学校では5割と高い割合を示した。(P7)

また、休日の仕事内容で「部活動の指導」は、高等学校では7割程度、中学校では6割程度という結果であった。(P9)

高等学校や中学校では、平日の勤務時間外、休日の仕事内容で「部活動の指導」が高い割合を示した。

一方、多忙であった原因として「部活動の指導」は、全体では3割程度という結果であった。校種別では、高等学校は5割程度、中学校は4割程度と高い割合を示した。(P11)

このことから、中学校・高等学校では、平日・休日の仕事内容として「部活動の指導」が高い割合を示しているものの、多忙感の原因の割合では、1割から2割程度低い割合を示す結果となった。

- (4) 多忙感を強く感じる理由に関する設問では、「ずっと多忙な状況が続くと予想される時」が7割程度、「予定外の用務が入ってきたとき」が5割程度であった。

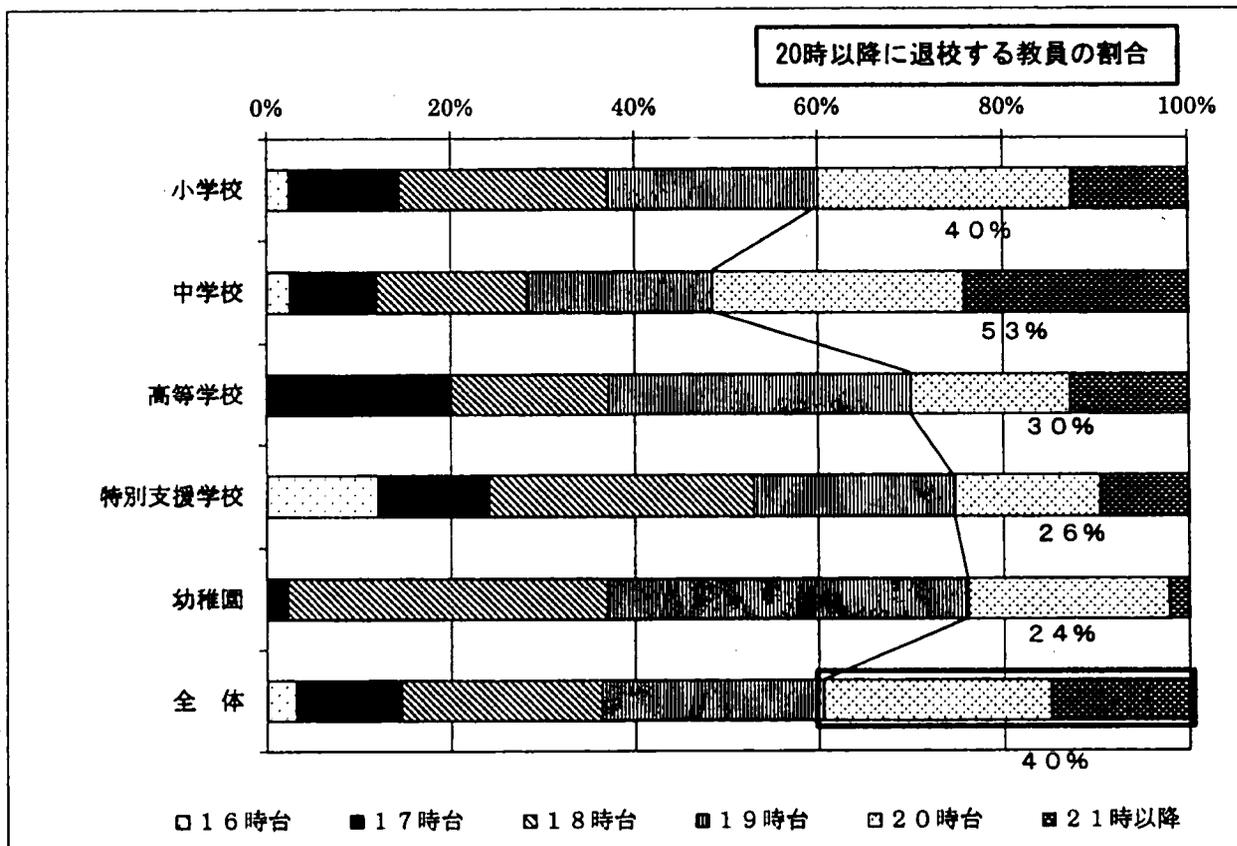
また、忙しくても負担を感じないときの設問では、「やりがいを感じる時」が6割程度、「児童生徒のためになると思えたとき」と「終わる見通しがつくとき」が5割程度、「周囲の協力が得られるとき」が4割程度という結果であった。

このことから、教員としての職務の特殊性から、協働性や同僚性が発揮でき児童生徒の成長につながる教育活動を実現できる職場環境づくりが大切であることが分かる。(P12)

Ⅲ 主な調査項目の結果

1 教員の多忙な実態について

問8 何時頃退校することが多かったですか。(退校時間帯について)



全体としては、18時台22%、19時台24%、20時台25%、21時以降15%という結果であった。20時以降に退校する教員の割合は、全体で40%という結果であった。

20時以降に退校する教員の割合を校種別で見ると、中学校53%、小学校40%、高等学校30%、特別支援学校26%、幼稚園24%という順であった。中学校の教員の割合がもっとも高く、次いで小学校という順であった。

(校種別の結果)

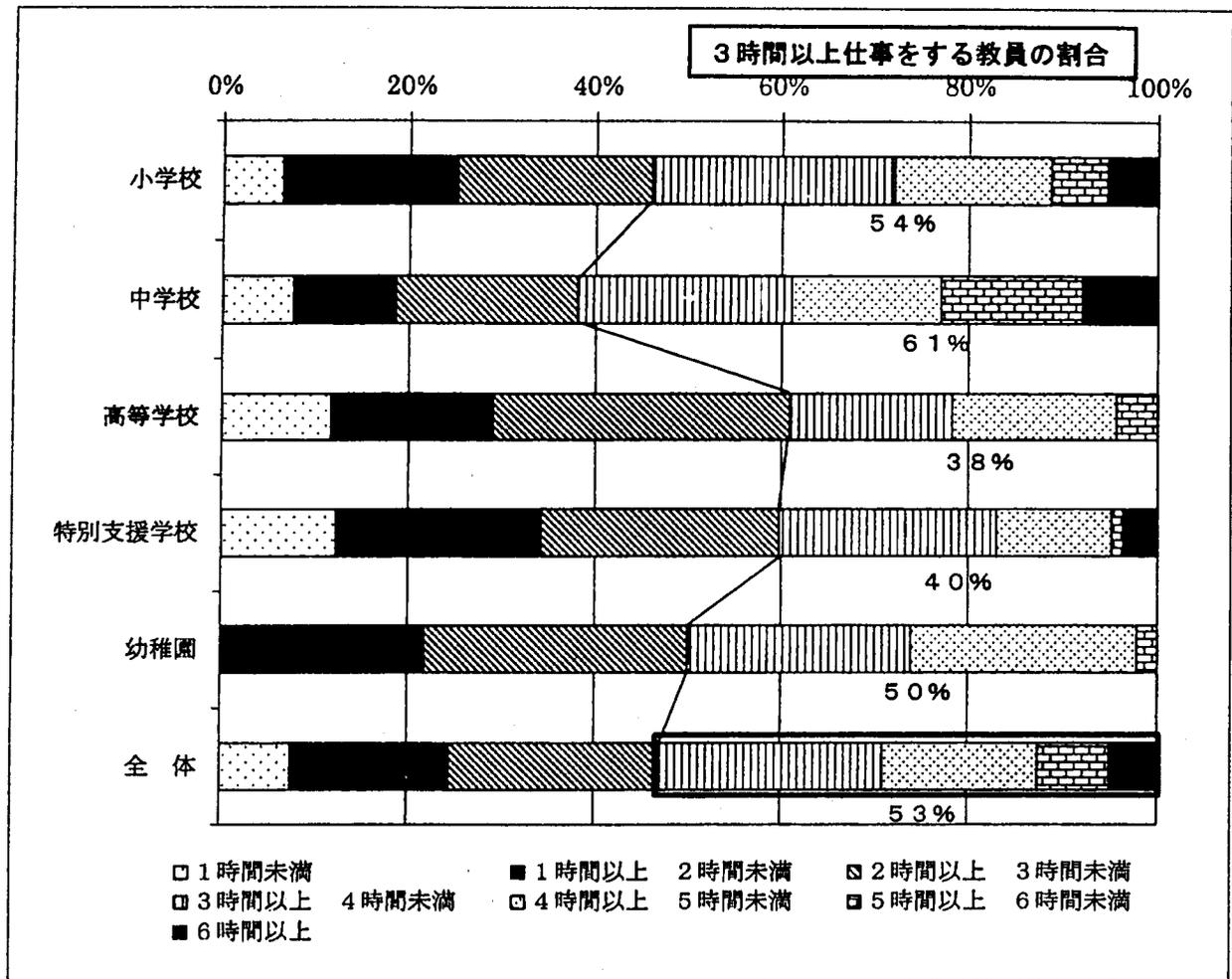
小学校での退校時間帯の割合としては、18時台23%、19時台23%、20時台27%という結果であった。18時台～20時台に退校する教員が73%であり、全体の傾向と変わらなかった。中学校においては、19時台～21時以降に退校する教員が73%と多い結果となった。

高等学校では、19時台に退校する教員の割合がもっとも高く33%であった。17時台に退校する教員も20%を数えている。

特別支援学校では、18時台～19時台に退校する教員が50%と多く、18時台28%、19時台22%という結果であった。

幼稚園では、18時台35%、19時台39%、20時台22%という結果であった。

問9 平日の勤務時間外(退校後も含む)に行った仕事の時間は一日何時間くらいですか。

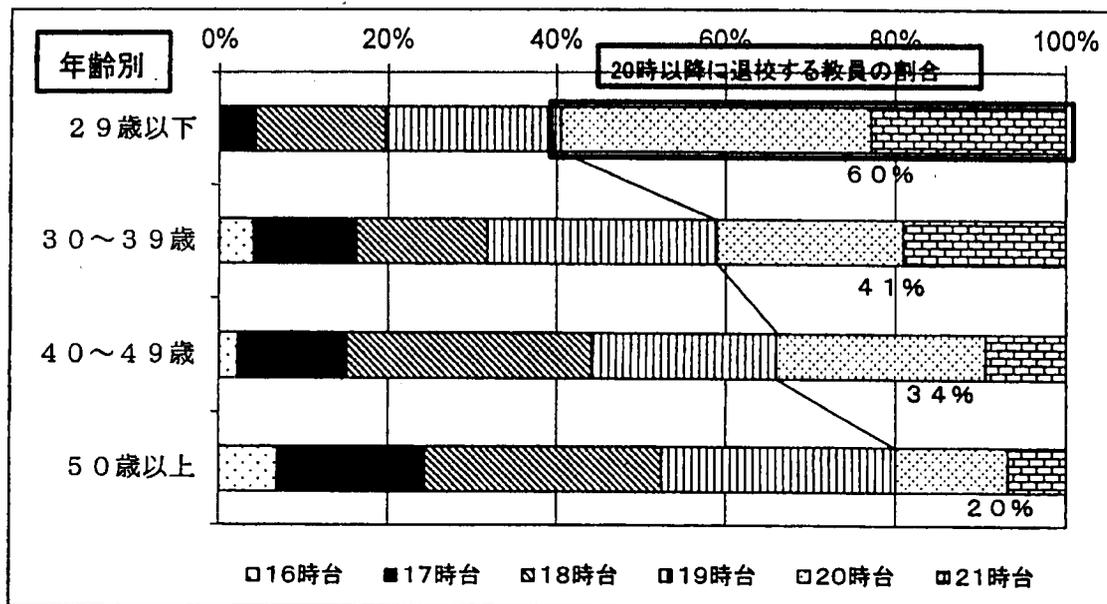


全体では、平日の勤務時間外に2時間以上仕事をしている教員は、76%、3時間以上は53%であった。3時間以上仕事をする教員の割合を校種別で見ると、中学校61%、小学校54%、幼稚園50%、特別支援学校40%、高等学校38%の順であった。

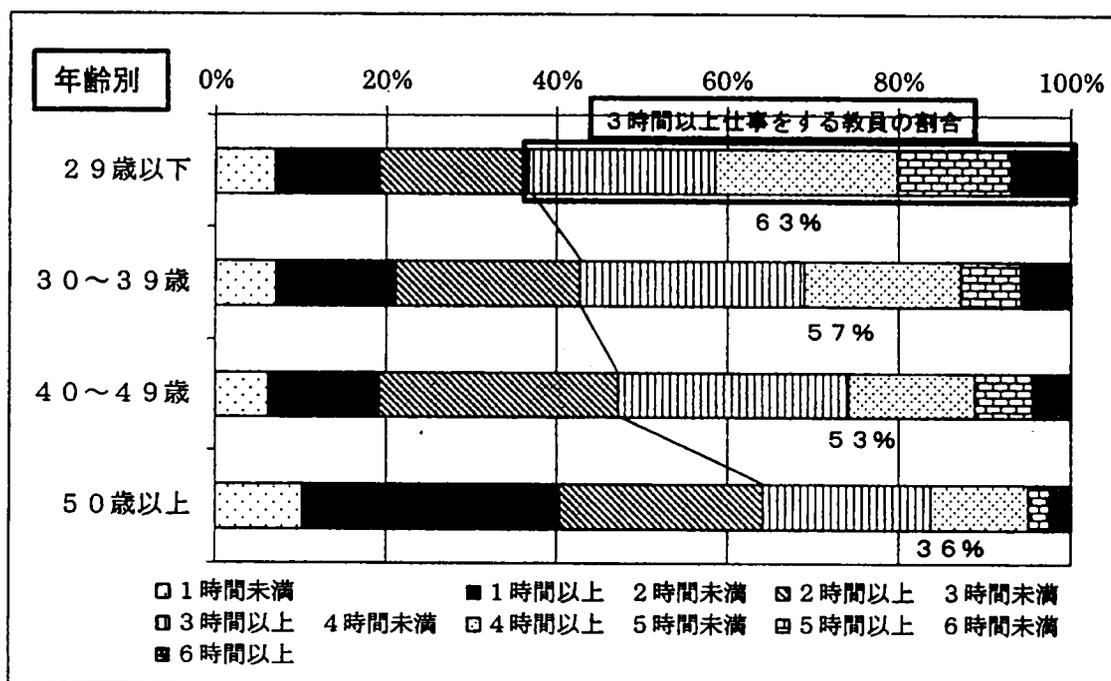
(校種別の結果)

小学校では、2時間以上が75%、3時間以上は54%、4時間以上は28%であった。
 中学校では、2時間以上が81%、3時間以上は61%、4時間以上は39%であった。
 小学校と比べ、中学校では、勤務時間外の仕事時間が長いことが分かる。
 高等学校では、2時間以上が71%、3時間以上は38%、4時間以上は21%であった。
 特別支援学校では、2時間以上が66%、3時間以上は40%、4時間以上は17%、幼稚園では、2時間以上が78%、3時間以上は50%、4時間以上は26%という結果であった。

問8 退校（園）時間帯（年齢別）



問9 平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の時間（年齢別）



20時以降に退校する教員の割合を年齢別で見ると、20歳代が60%、30歳代が41%、40歳代が34%、50歳以上が20%という結果であった。

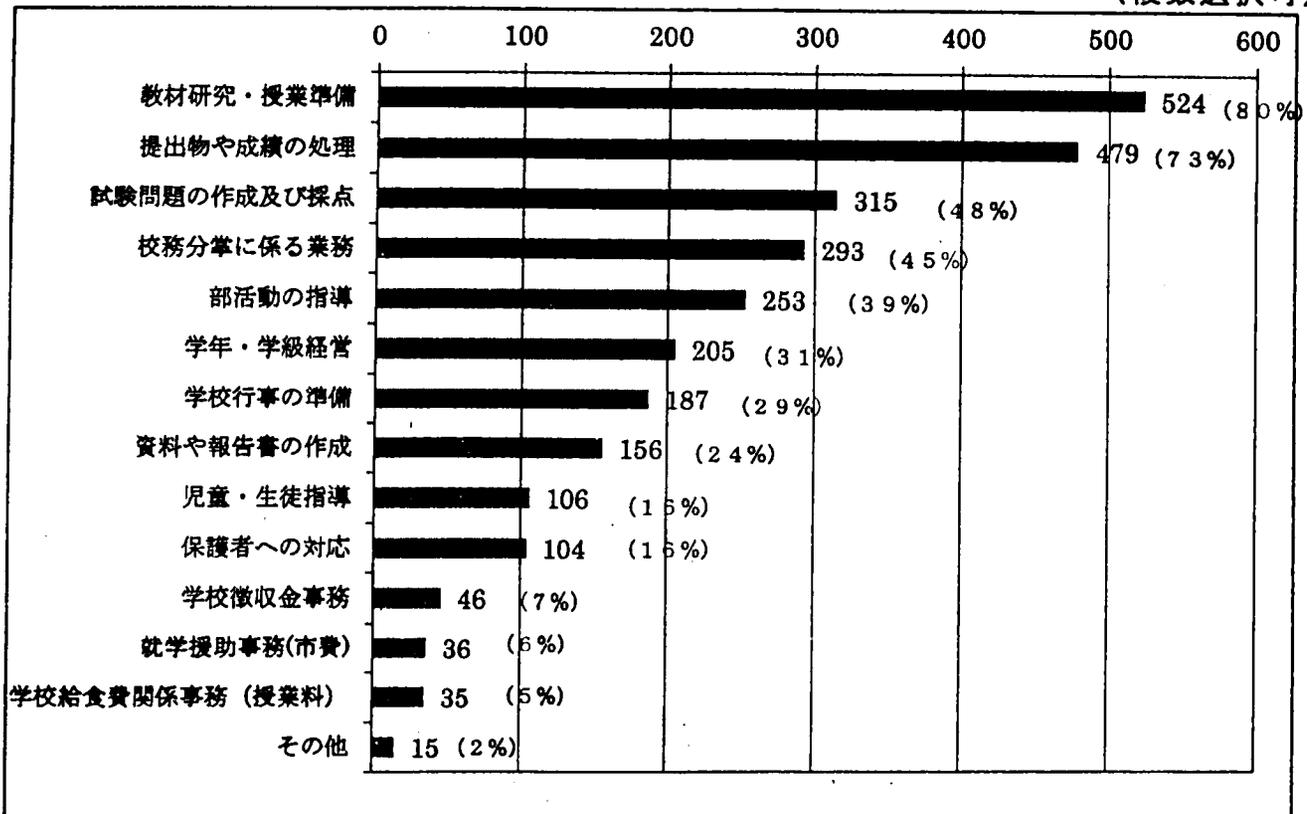
また、3時間以上仕事をする教員の割合を年齢別で見ると、20歳代が63%、30歳代が57%、40歳代が53%、50歳以上が36%という結果であった。

20時以降に退校する教員の割合と仕事の時間数を比較してみると、20歳代では、3ポイント、30歳代～50歳代では16ポイント～19ポイントの違いがあり、どの年齢層においても仕事の時間数の割合の方が上回る結果となった。

このことから、勤務時間外の始業前や退校後にも仕事を行っていることが分かる。また、若い年齢層ほど多くの時間を仕事に費やしていることも分かる。

問10 平日の勤務時間外(退校後も含む)に行った仕事の主な内容は、次のどれですか。

(複数選択可)



【校種別の割合】

仕事内容	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	幼稚園
教材研究・授業準備	②76%	①71%	①73%	①80%	①76%
提出物や成績の処理	①80%	②70%	50%	②35%	①76%
試験問題の作成及び採点	③49%	③63%	③56%	1%	
校務分掌に係る業務	45%	37%	50%	③31%	46%
部活動の指導	34%	51%	②60%	7%	
学年・学級経営	33%	35%	16%	20%	17%
学校行事の準備	25%	32%	13%	10%	③65%
資料や報告書の作成	19%	21%	20%	29%	43%
児童・生徒指導	9%	33%	10%	8%	
保護者への対応	14%	21%	10%	13%	7%
学校徴収金事務	7%	6%		0%	28%
就学援助事務(市費)	4%	4%		0%	37%
学校給食費関係事務(授業料)	5%	4%		1%	24%
その他	2%	1%	9%	2%	0%

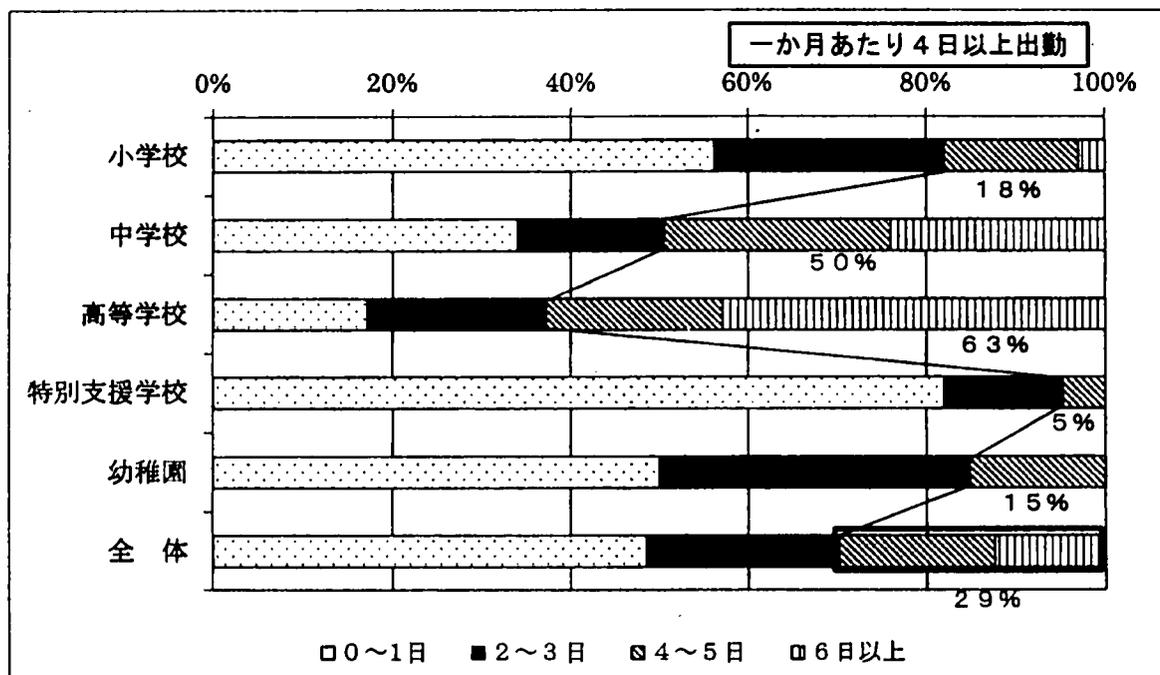
「平日の勤務時間外に行った仕事の内容」では、「教材研究・授業準備」が80%ともっとも高く、次に、「提出物や成績の処理」が73%という結果であった。また、「試験問題の作成及び採点」が48%、「校務分掌に係る業務」が45%であった。「学校徴収金事務」「就学援助事務」「学校給食費関係事務」については、10%より低い割合を示しているが、これは校務分掌上の担当者が主に行う仕事となっているためであると思われる。

問 1 1 休日（勤務を要しない日）に出勤して仕事をした日数は、一か月あたりどれくらいでしたか。

校 種	0～1日	2～3日	4～5日	6日以上	合計
小学校	168	77	45	9	299
中学校	68	33	51	48	200
高等学校	12	14	14	30	70
特別支援学校	68	11	4	0	83
幼稚園	23	16	7	0	46
全 体	339	151	121	87	698

未記入1

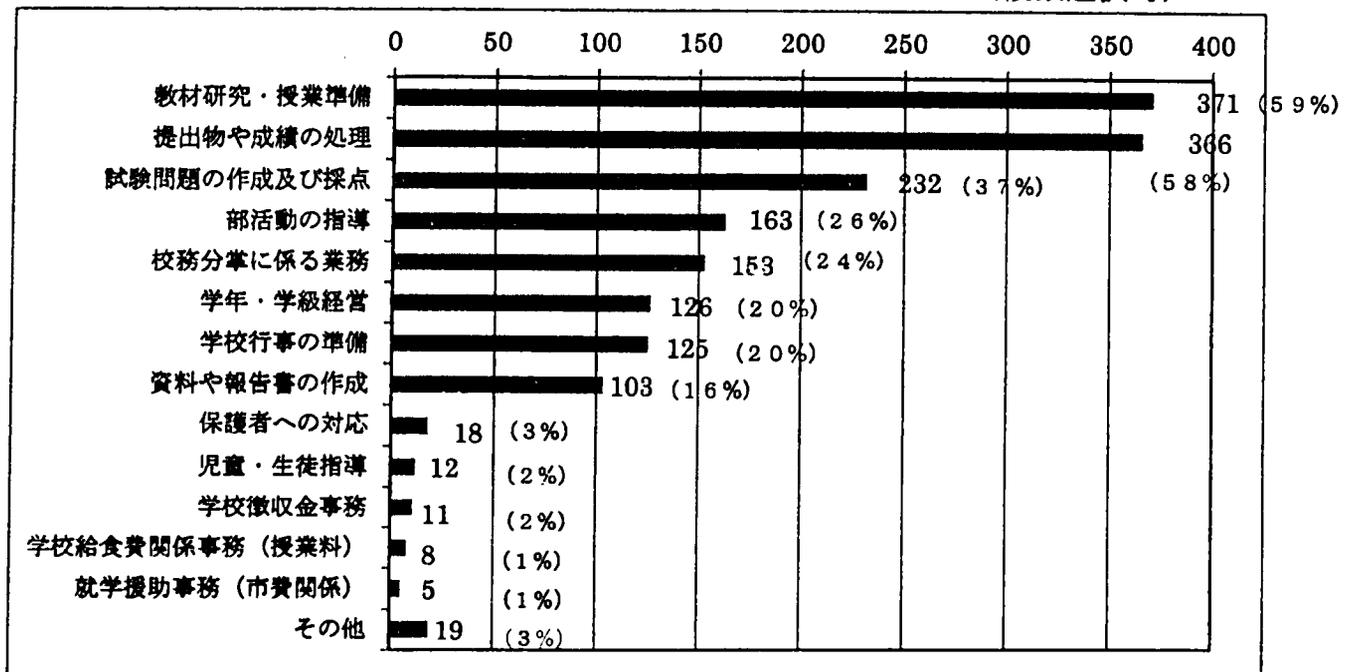
未記入2



全体では、51%の教員が休日に1か月あたり2日以上出勤したという結果であった。1か月で4日以上は29%にのぼることから、3割程度の教員が、平均すると土・日のいずれかは出校して仕事をしていることになる。なお、6日以上は、全体の12%という結果であった。

問12 休日に行った仕事（学校外も含む）の主な内容は次のうちどれですか。

（複数選択可）

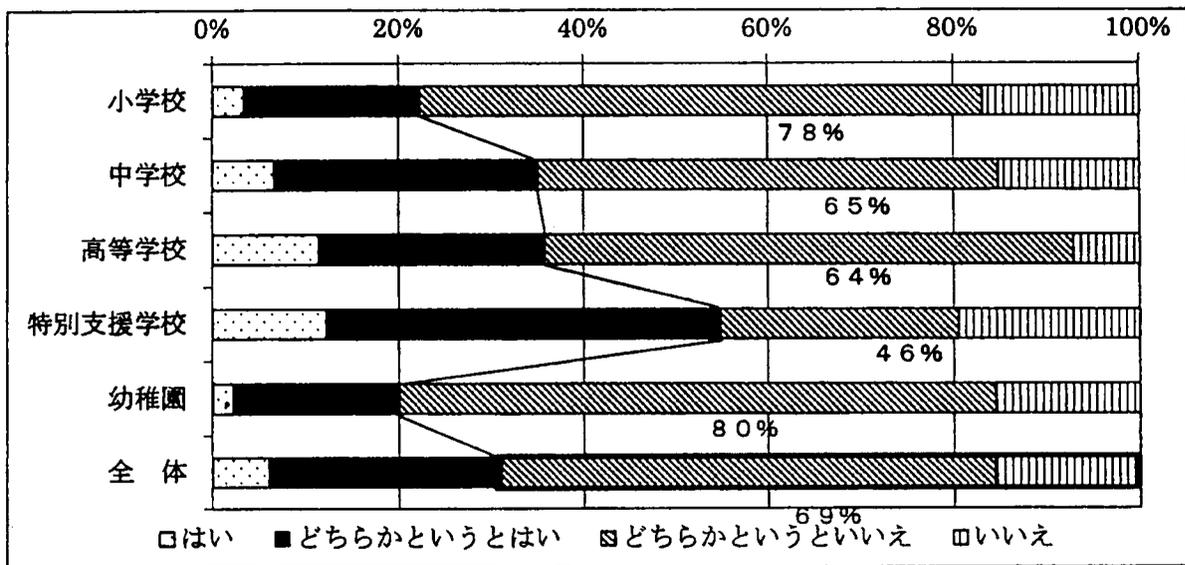


【校種別の割合】

仕事内容	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	幼稚園
教材研究・授業準備	②68%	49%	②38%	①69%	①65%
提出物や成績の処理	①78%	①57%	33%	③19%	②46%
試験問題の作成及び採点	③41%	③53%	②38%	2%	
部活動の指導	3%	②55%	①68%	8%	
校務分掌に係る業務	28%	21%	25%	②23%	20%
学年・学級経営	22%	25%	12%	9%	15%
学校行事の準備	17%	26%	9%	9%	②46%
資料や報告書の作成	17%	13%	12%	③19%	30%
保護者への対応	1%	5%	4%	5%	0%
児童・生徒指導	1%	4%	1%	2%	
学校徴収金事務	0%	3%		0%	11%
学校給食費関係事務（授業料）	2%	1%		0%	2%
就学援助事務（市費）	0%	1%		0%	4%
その他	3%	2%	9%	0%	2%

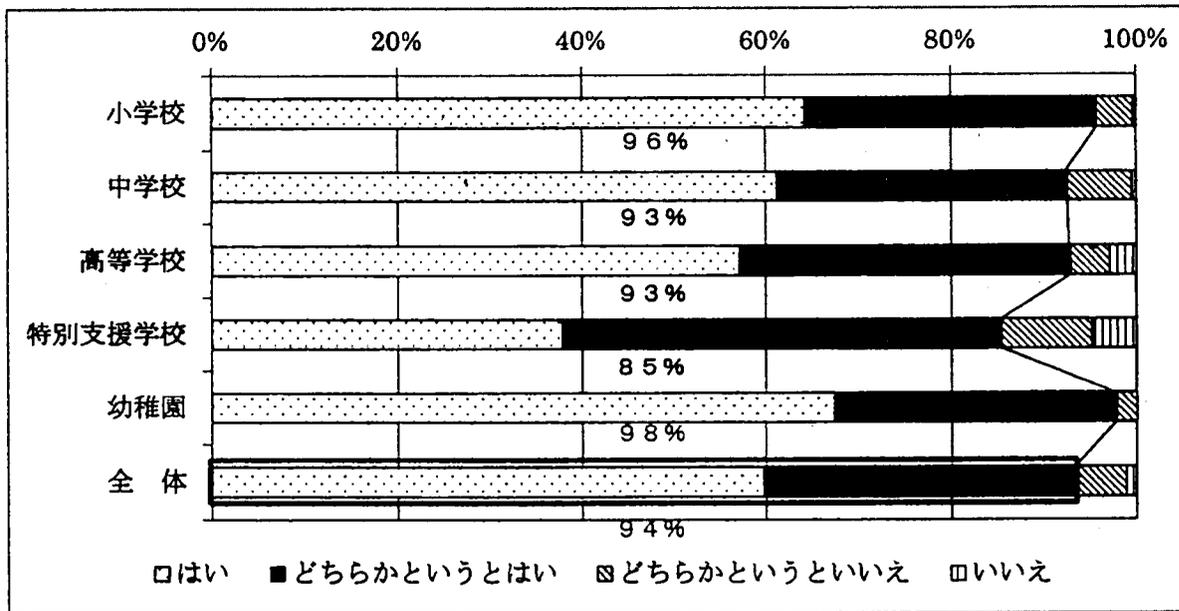
全体では、「教材研究・授業準備」が59%、「提出物や成績の処理」が58%と高い割合であった。校種別に見ていくと、小学校では「提出物や成績の処理」「教材研究・授業準備」が7～8割程度と高い割合であった。中学校では「提出物や成績の処理」「部活動の指導」「試験問題の作成及び採点」「教材研究・授業準備」が5割程度という結果であった。また、高等学校では「部活動の指導」が68%、特別支援学校では「教材研究・授業準備」が69%ともっとも高い結果となった。幼稚園では「教材研究・授業準備」が65%、「提出物や園児記録（成績）の処理」と「園（学校）行事の準備」がともに46%という結果であった。どの校種においても、「教材研究・授業準備」が上位にあり、平日だけでは十分な時間がとれず、休日にも仕事を行っていることが分かる。

問 1 3 教材研究や授業準備に十分な時間がとれていましたか。



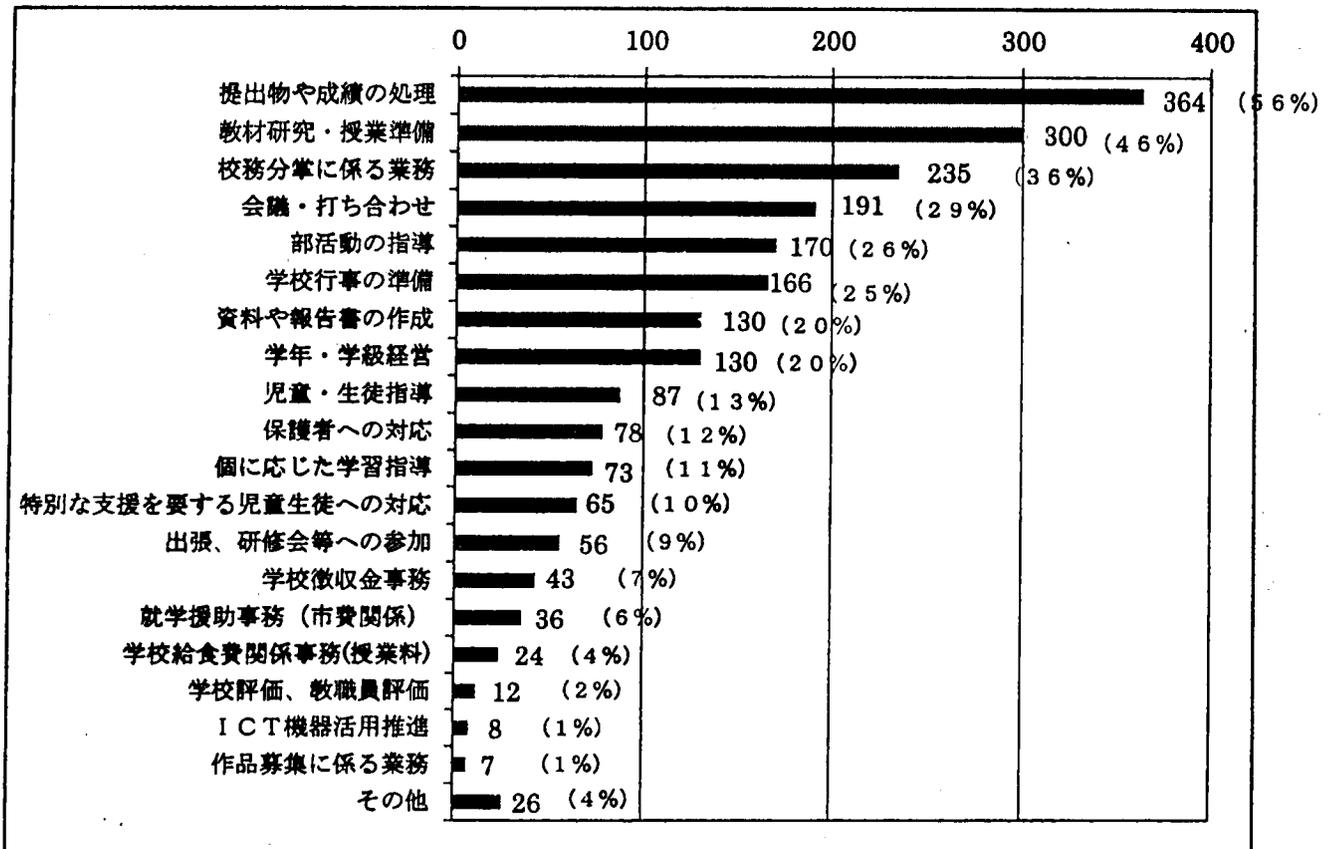
「教材研究や授業準備に十分な時間がとれていたか」の問いに対して、全体では、「どちらかというといいえ」が53%、「いいえ」が16%、あわせると7割程度の教員が「十分な時間がとれていない」という状況が分かった。
 教員のもっとも大切な仕事である「授業」のための準備に十分な時間をとることができるようにしていく必要があるといえる。

問 1 4 6月から7月の自分の職務について、忙しいと感じましたか。



全体では、「はい」が60%と最も高く、次いで「どちらかというとはい」が34%、「どちらかというといいえ」が5%、「いいえ」が1%であった。「はい」「どちらかというとはい」を合わせると、94%という結果であった。
 どの校種においても、肯定する者が9割近くかそれ以上の割合を示しており、ほとんどの教員が、自分の職務を「忙しい」と感じていることが分かる。

問15 多忙であった主な原因は、次のうちどれですか。(複数選択可)



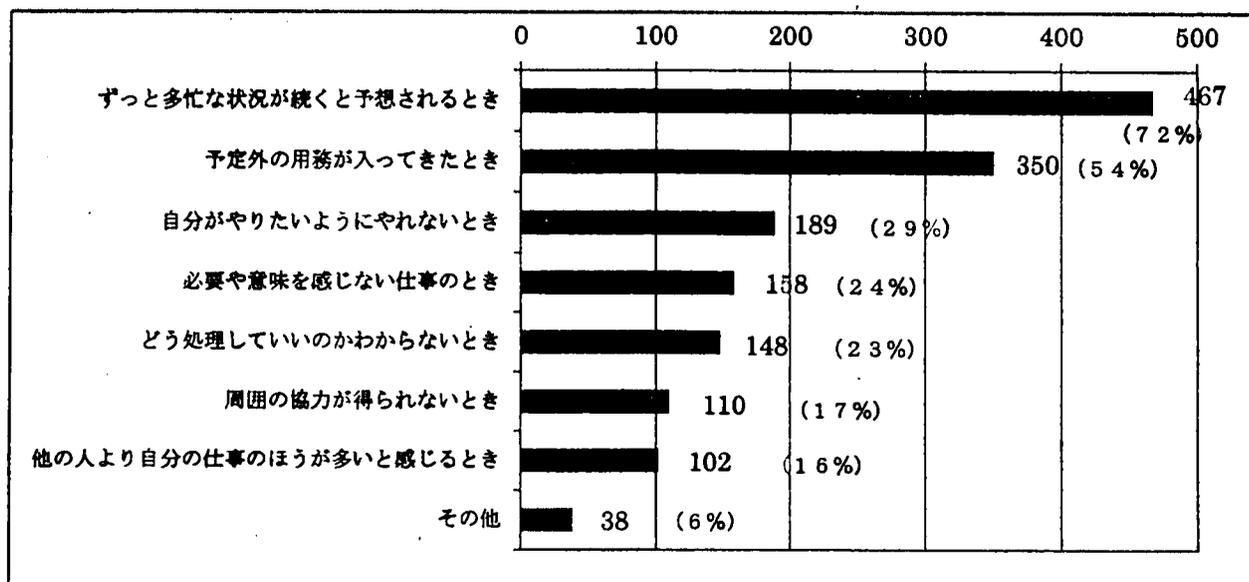
全体では、「提出物や成績の処理」が56%で最も高く、次いで「教材研究・授業準備」が46%、「校務分掌に係る業務」が36%という結果であった。続いて、「会議・打ち合わせ」が29%、「部活動の指導」が26%、「学校行事の準備」が25%であった。

〈校種別の主な内容〉

主な仕事内容	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	幼稚園
提出物や成績の処理	①66%	①56%	46%	27%	③49%
教材研究・授業準備	②49%	②39%	②49%	①43%	②56%
校務分掌に係る業務	③35%	34%	①52%	③33%	31%
会議・打ち合わせ	21%	③37%	35%	②40%	29%
部活動の指導	24%	35%	③48%	9%	
学校行事の準備	20%	34%	15%	13%	①64%
資料や報告書の作成	19%	21%	15%	21%	27%
学年・学級経営	21%	25%	26%	9%	2%
児童・生徒指導	9%	25%	12%	10%	
保護者への対応	12%	15%	8%	10%	11%
個に応じた学習指導	9%	11%	17%	21%	
特別な支援を要する児童生徒への対応	11%	8%	9%	9%	11%
出張、研修会等への参加	7%	5%	15%	7%	27%
学校徴収金事務	8%	6%		0%	22%
就学援助事務(市費関係)	4%	5%		0%	36%
学校給食費関係事務(授業料)	4%	2%		1%	13%
学校評価、教職員評価	2%	2%	0%	0%	2%
ICT機器活用推進	1%	1%	1%	1%	4%
作品募集に係る業務	2%	1%		0%	
その他	3%	3%	3%	0%	3%

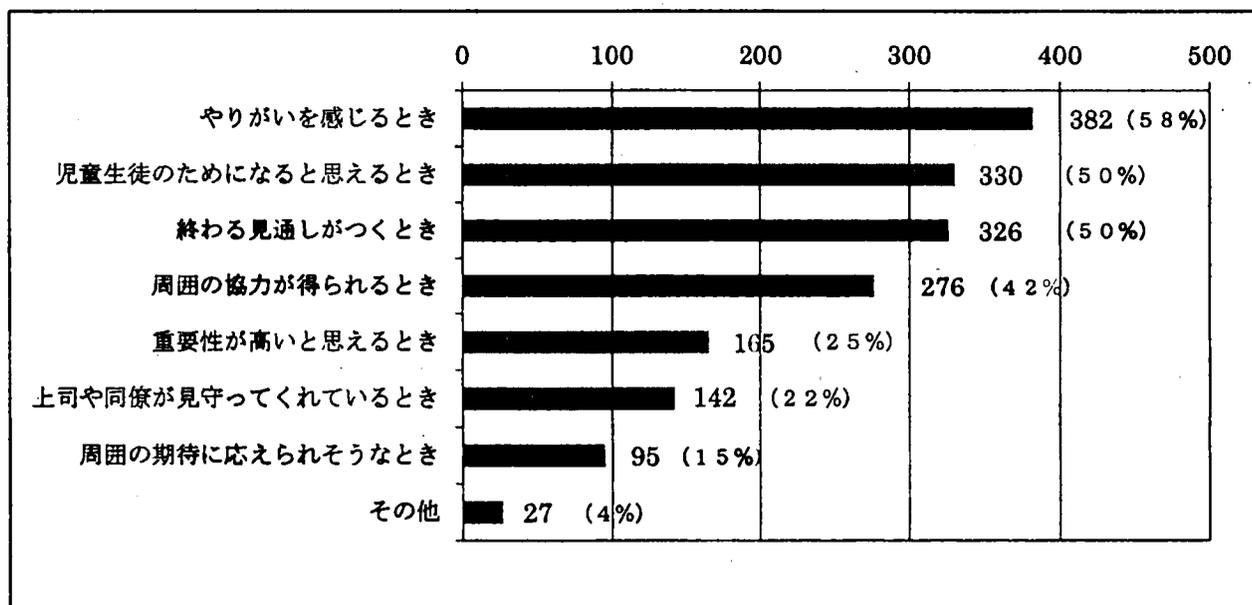
2 教員の多忙感について

問16 あなたが、多忙だと感じる時はどんなときですか。(複数選択可)



「ずっと多忙な状況が続くと予想されるとき」が72%、次いで「予定外の用務が入ってきたとき」が54%であり、この2つの項目が他の項目に比べて高い結果となった。また、「自分がやりたいようにやれないとき」が29%、「必要や意味を感じない仕事のとき」「どう処理していいのかわからないとき」は20%程度であった。「周囲の協力が得られないとき」といった同僚との関係の中で発生する多忙感は17%と低かった。

問17 忙しくても負担を感じない時はどんなときですか。(複数選択可)



「やりがいを感じる時」が58%と最も高く、次いで、「児童生徒のためになると思える時」と「終わる見通しがつく時」は50%であった。この結果から、仕事に対する満足感や成就感を感じるときに、多忙感はいわゆる和らぐものと思われる。また、「周囲の協力が得られる時」が42%、「上司や同僚が見守ってくれている時」が22%という結果であった。このことから、一人で抱え込まないように管理職や同僚が支援することが、多忙感を和らげることにつながると思われる。

3 勤務時間外の仕事時間について

- 問9「平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の時間は一日何時間くらいですか」の下記の調査結果を基にして、勤務時間外の仕事時間の平均を階級値と度数から算出した結果、勤務時間外の仕事時間の平均は、およそ3時間11分となった。

問9 平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の時間

校 種	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上	合計
	小学校	19	56	63	78	50	18	
中学校	15	22	39	46	32	30	16	200
高等学校	8	12	22	12	12	3	0	69
特別支援学校	10	18	21	19	10	1	3	82
幼稚園	0	10	13	11	11	1	0	46
全 体	52	118	158	166	115	53	35	697

未記入2

未記入1

未記入1

【勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事時間の平均を階級値と度数より算出】

$$(30 \times 52 + 90 \times 118 + 150 \times 158 + 210 \times 166 + 270 \times 115 + 330 \times 53 + 390 \times 35) \div 697 = 190.71(\text{分})$$

→ およそ 3時間11分

※ なお、「6時間以上」の階級値を6時間30分（390分）として計算しているため、実際の平均値は、もう少し高いと考えられる。

また、平成19年度の勤務実態調査とは、調査方法、サンプル数、調査対象等が同一でないため、安易に仕事時間を比較することはできないと考えられる。

〈参考資料：平成19年度 勤務実態調査での仕事時間〉

〈教諭分〉 (平成19年6～7月の1週間、抽出校 小8校・中8校、対象 275名)

	A 児童生徒への直接的な指導・授業、生徒指導・部活	B 児童生徒への間接的な指導・成績処理、教材研究	C 学校運営関係の業務・会議、校務分掌、事務	D 外部対応・保護者対応、PTA関連業務	合計
名古屋市の教員	6時間 6分	3時間 33分	1時間 26分	16分	11時間 21分
文科省調査(H18)	6時間 46分	2時間 34分	1時間 44分	13分	11時間 17分

※ 名古屋市の教員の「11時間21分」は、平成18年度実施した文部科学省の教員勤務実態調査に準じて、勤務時間、残業時間（出勤から退勤までの時間のうち、正規の勤務時間帯を除いた時間）、持ち帰り時間を調査した平均値である。調査当時は、勤務時間が8時間であったため、勤務時間外の仕事時間の平均は、3時間21分といえる。

IV 教員の量的・質的負担の軽減に向けて

1 量的負担の軽減への取り組み

(1) 校務の効率化

実態として、教員の本来業務である「教材研究」「授業準備」「成績処理」「試験問題作成」「採点」に多くの時間を費やしていることが分かった。

そのため、本来業務のICT化により、例えば通知表作成、指導要録作成等の事務負担を軽減していくことが必要である。

また、職員室内ネットワークの活用により、文書の電子化、管理の一元化を図り、誰もが利用できるようにする校内体制づくりが必要である。

(2) 教員の事務的な業務の外部化

教材研究や授業準備に十分な時間がとれていないという現状から、子どもと間接的にかかわる業務について、家庭・地域の方々の協力を得て、外部化を図ることが必要である。運営サポーターや学習支援ボランティアなどの学校を支援する体制を確立し、十分に活用していくことが必要である。

(3) 部活動の在り方等の検討

部活動指導に要する時間の軽減を図ることが大切である。しかし、「教員としてのやりがいを感じる」「児童生徒のためになっている」との現場の声もあり、教員として負担に感じているとは一概にいえぬのも確かである。また、部活動は学校の教育活動の一環であり、児童生徒の心身の成長にとって大切な活動である。

これからの部活動の在り方については、さらに検討を進めるとともに、部活動の支援策として、外部指導者の拡充等について検討していくことが必要である。

2 質的負担の軽減への取り組み

(1) メンタルヘルス対策の充実

教員の仕事は、児童生徒、保護者、地域の方々との対人関係の中で成り立つものであるため、対人によって生じるストレスは避けられないといえる。また、調査から、多忙感を強く感じるときは、「ずっと多忙な状況が続くと予想される」「予定外の用務が入ってきた」など見通しをもって計画的に仕事が進められないときであることが分かった。

教員のストレス軽減について検討を行い、教員自身のストレス対処能力の向上や相談しやすい職場づくり、教育委員会等による支援体制の充実に向けて、「教職員メンタルヘルス計画（仮称）」の策定を行うことが必要である。

(2) 学校での支援体制の充実

「やりがいを感じる」「児童生徒のためになる」などの仕事に対する満足感や成就感を感じる時や、「周囲の協力」「上司や同僚からの見守り」などの職場環境の支援により、多忙感は和らぐものと思われる。

教員一人で抱え込まないような校内体制づくりとして、多忙な時期に、自他の校務分掌にこだわらず協力して仕事を進めることにより仕事量の軽減を図ることや、教員が教科指導、児童生徒指導、保護者対応などの問題を一人で抱え込まず、協働的、組織的に問題解決を行い、多忙感の軽減を図ることなどに留意することが必要である。

V 資料編

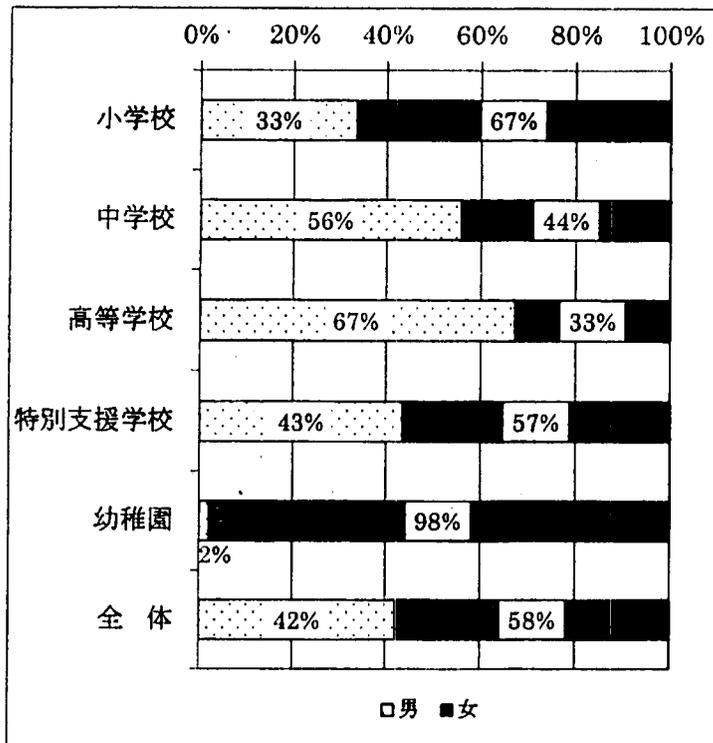
1 集計結果

問1 校種と性別

校種	男	女	計
小学校	100	199	299
中学校	112	89	201
高等学校	47	23	70
特別支援学校	36	47	83
幼稚園	1	45	46
全体	296	403	699

未記入1

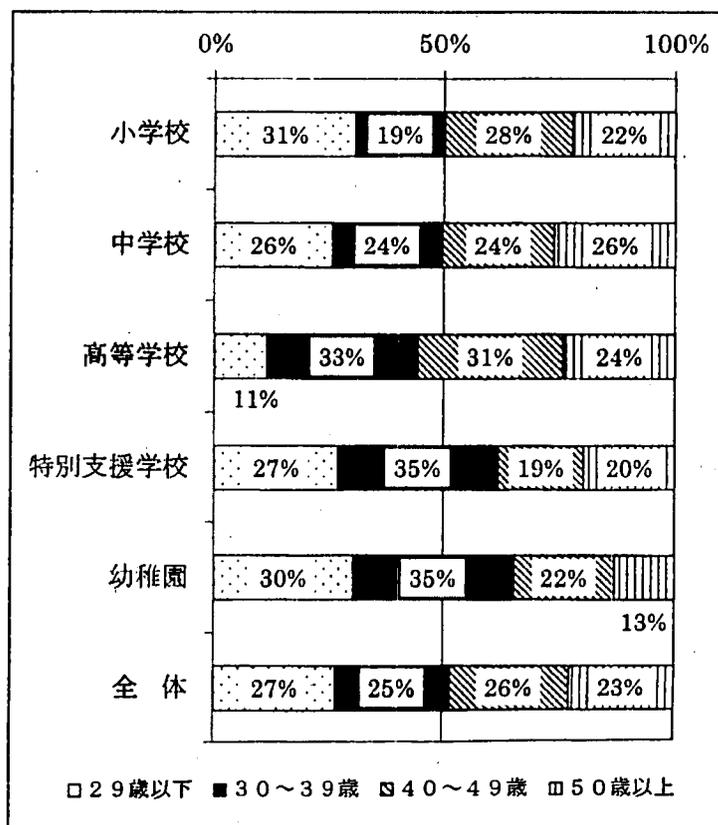
未記入1



問2 校種と年齢構成

校種	29歳以下	30~39歳	40~49歳	50歳以上
小学校	92	58	83	67
中学校	52	48	49	53
高等学校	8	23	22	17
特別支援学校	22	28	15	16
幼稚園	14	16	10	6
全体	188	173	179	159

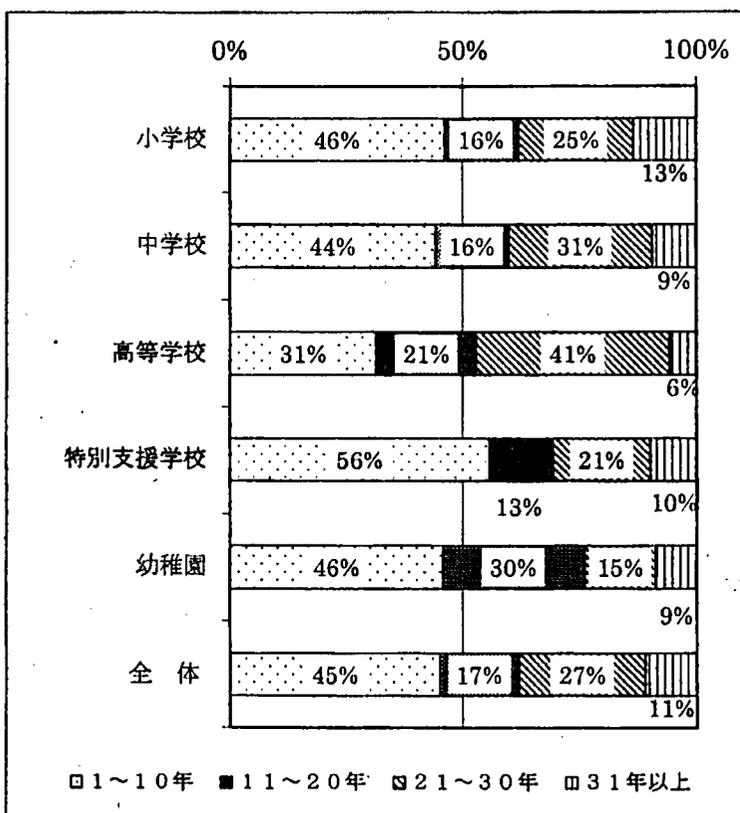
未記入2



□ 29歳以下 ■ 30~39歳 ▨ 40~49歳 ▩ 50歳以上

問3 経験年数

校種	1～10年	11～20年	21～30年	31年以上
小学校	138	48	74	40
中学校	89	32	62	19
高等学校	22	15	29	4
特別支援学校	46	11	17	8
幼稚園	21	14	7	4
全体	316	120	189	75

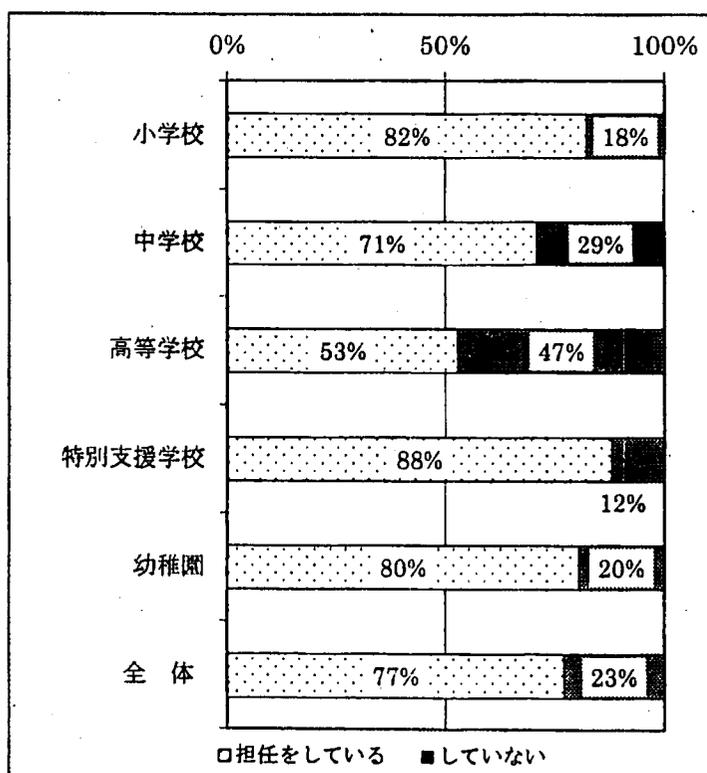


問4 学校種 (各問に反映させているため、集計なし)

問5 学級担任の有無

校種	担任をしている	していない	計
小学校	246	53	299
中学校	143	59	202
高等学校	37	33	70
特別支援学校	73	10	83
幼稚園	37	9	46
全体	536	164	700

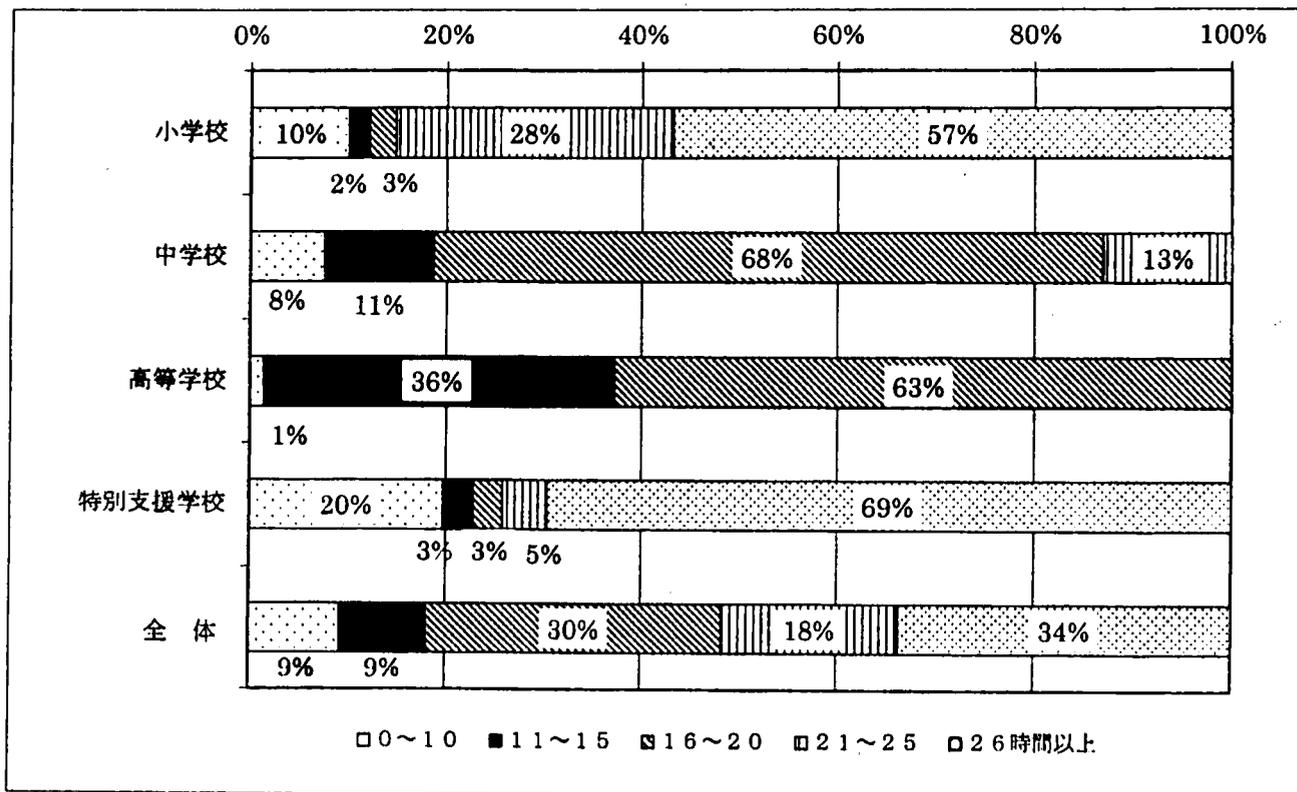
未記入1



問6 一週あたりの授業時間数

校種	0~10	11~15	16~20	21~25	26時間以上	合計
小学校	29	6	8	83	166	292
中学校	15	22	136	26	0	199
高等学校	1	25	44	0	0	70
特別支援学校	13	2	2	3	46	66
全体	58	55	190	112	212	627

未記入 8
未記入 3
未記入 17



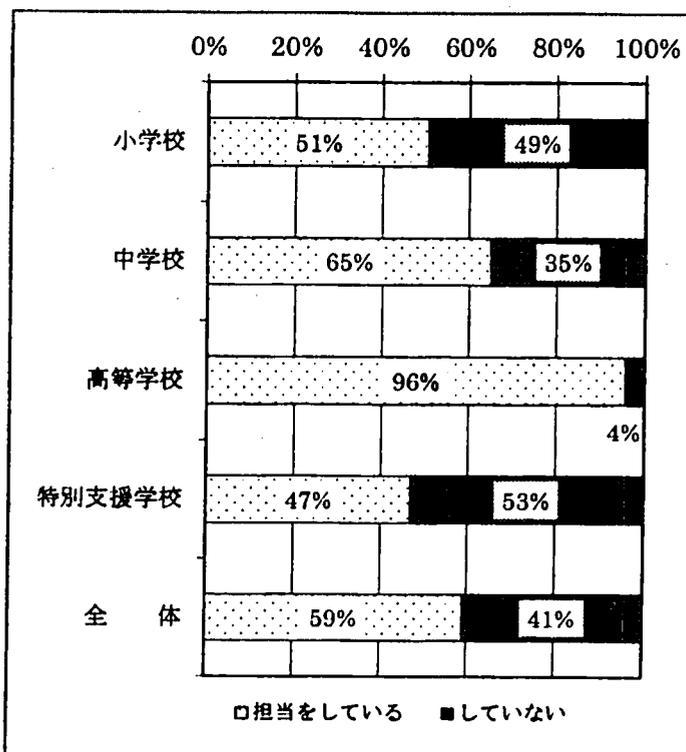
問7 部活動の有無

校種	担当をしている	していない	合計
小学校	151	148	299
中学校	130	70	200
高等学校	67	3	70
特別支援学校	37	42	79
全体	385	263	648

未記入 1
未記入 2
未記入 4

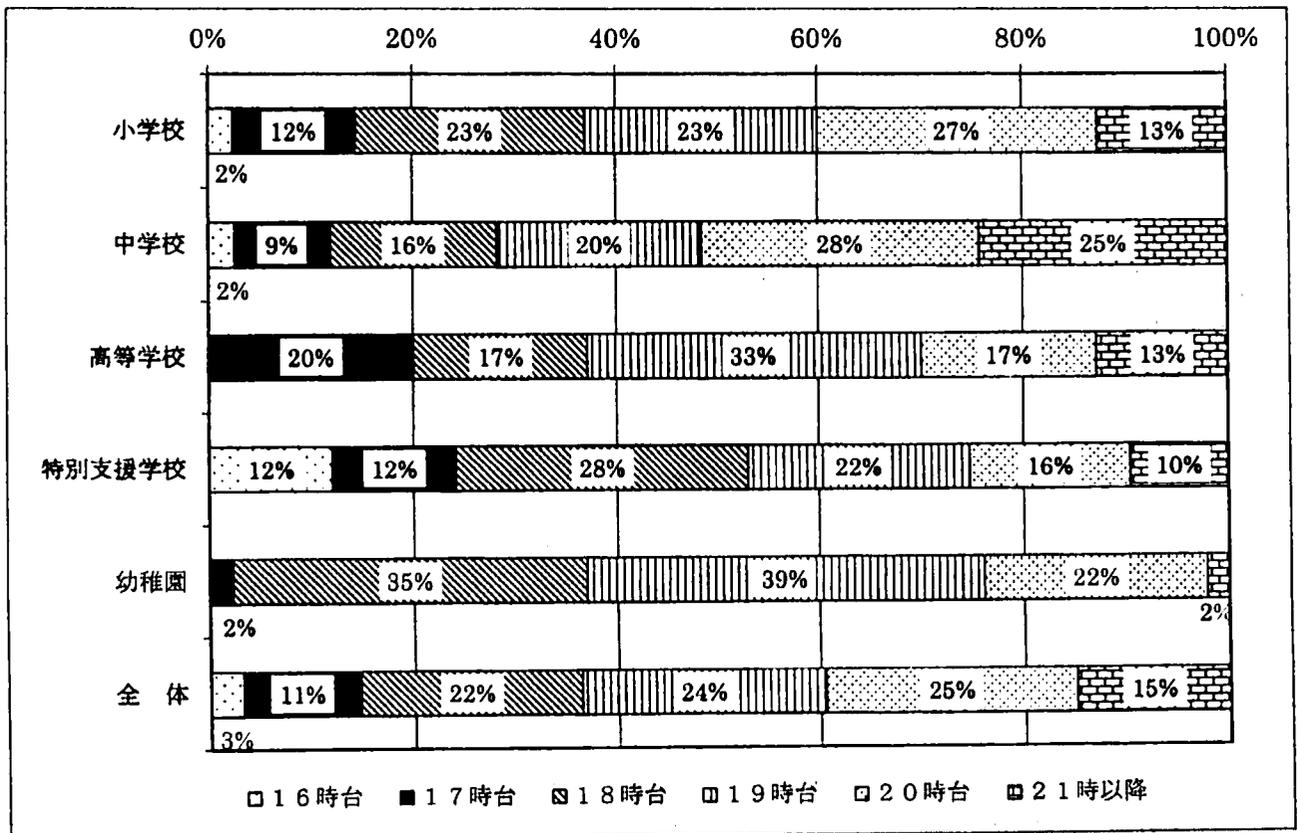
部活動の担当をしている割合は、全体では6割程度であった。校種別で見ると、小学校では51%、中学校では65%、高等学校では96%、特別支援学校では47%という結果であった。

高等学校では部活動を担当する教員の割合が校種別でもっとも高い結果を示した。



問8 退校(園)時間帯

校種	16時台	17時台	18時台	19時台	20時台	21時以降	合計
小学校	7	36	68	69	82	38	300
中学校	5	19	33	41	55	49	202
高等学校		14	12	23	12	9	70
特別支援学校	10	10	24	18	13	8	83
幼稚園		1	16	18	10	1	46
全体	22	80	153	169	172	105	701



全体としては、18時台22%、19時台24%、20時台25%、21時以降15%という結果であった。20時以降に退校する教員の割合は、全体で40%という結果であった。

20時以降に退校する教員の割合を校種別で見ると、中学校53%、小学校40%、高等学校30%、特別支援学校26%、幼稚園24%という割合であった。中学校の教員の割合がもっとも高く、次いで小学校という順であった。

(校種別の結果)

小学校では、18時台～20時台に退校する教員が73%であり、全体の傾向と変わらなかった。中学校においては、19時台～21時以降に退校する教員が73%という結果であり、小学校に比べ中学校教員の退校する時間帯が1時間ほど遅いことが分かる。

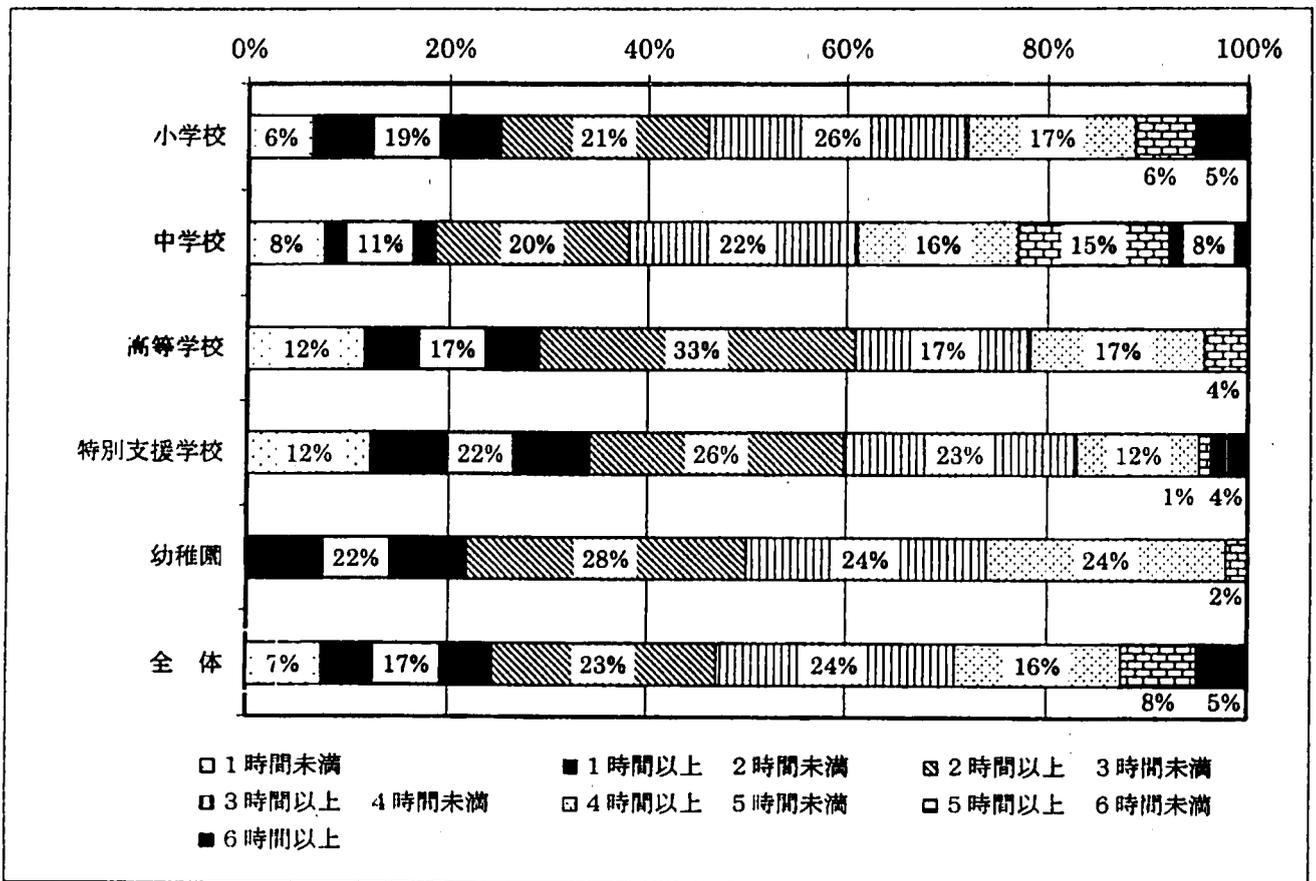
高等学校では、19時台に退校する教員の割合がもっとも高く33%であった。また、17時台に退校する教員も20%を数えている。

特別支援学校では、18時台～19時台に退校する教員が50%と多い結果であった。幼稚園では、18時台～20時台に退校する教員の割合が96%という結果であった。

問9 平日の勤務時間外(退校後も含む)に行った仕事の時間

校種	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間 以上	合計
小学校	19	56	63	78	50	18	16	300
中学校	15	22	39	46	32	30	16	200
高等学校	8	12	22	12	12	3	0	69
特別支援学校	10	18	21	19	10	1	3	82
幼稚園	0	10	13	11	11	1	0	46
全体	52	118	158	166	115	53	35	697

未記入2
未記入1
未記入1



全体では、平日の勤務時間外に2時間以上仕事をしている教諭は76%、3時間以上は53%であった。3時間以上仕事をする教員の割合を校種別で見ると、小学校54%、中学校61%、高等学校38%、特別支援学校40%、幼稚園50%という結果であった。中学校の教員の割合がもっとも高く、次いで小学校、幼稚園という順であった。

(校種別の結果)

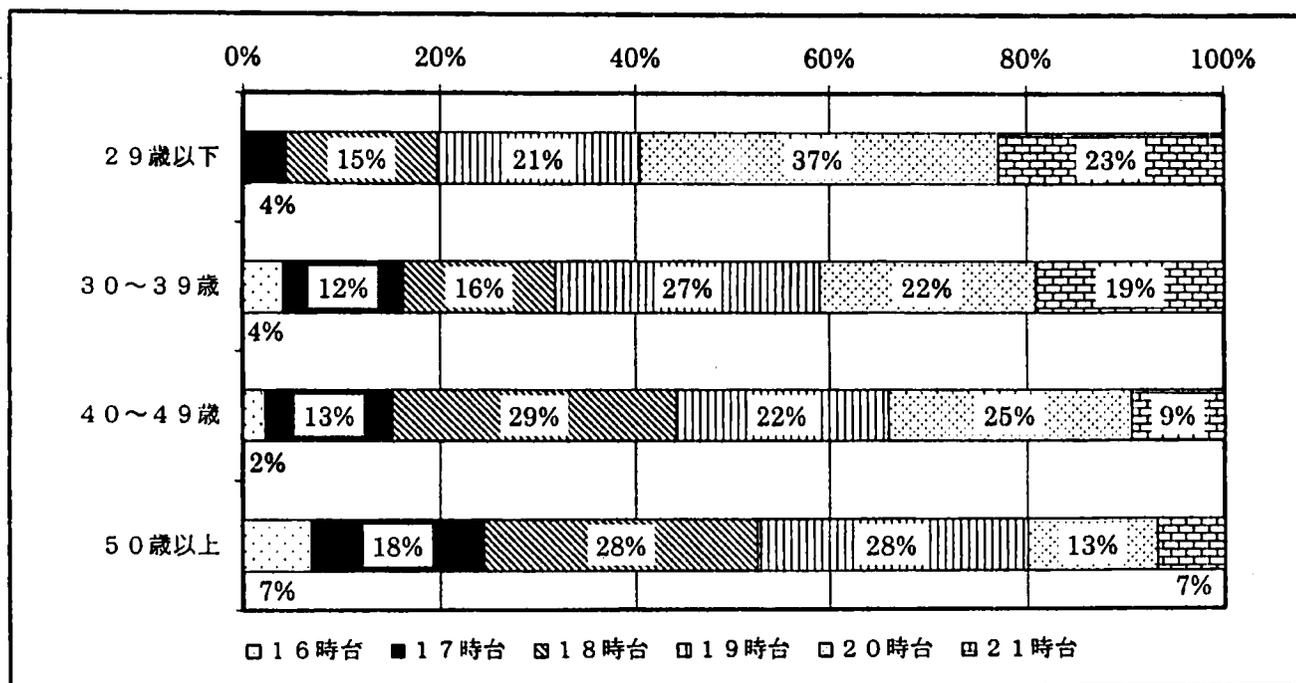
小学校では、2時間以上が75%、3時間以上は54%、4時間以上は28%であった。中学校では、2時間以上が81%、3時間以上は61%、4時間以上は39%であり、小学校と比べ、仕事に要する時間が長いことが分かった。

高等学校では、2時間以上が71%、3時間以上は38%、4時間以上は21%であった。特別支援学校では、2時間以上が66%、3時間以上は40%、4時間以上は17%であった。幼稚園では、2時間以上が78%、3時間以上は50%、4時間以上は26%であった。

問8 退校(園)時間帯 (年齢別の割合)

【問2 年齢別とのクロス集計結果】

年齢別	16時台	17時台	18時台	19時台	20時台	21時以降
29歳以下	0	8	29	39	69	43
30～39歳	7	21	27	47	38	33
40～49歳	4	23	52	39	44	17
50歳以上	11	28	45	44	21	11



20時以降に退校する教員の割合を年齢別で見ると、20歳代は60%、30歳代は41%、40歳代は34%、50歳以上は20%という結果であった。20歳代の教員が6割でもっとも高く、次いで30歳代が4割程度という順であった。

このことから、年齢層が若いほど、在校時間が長いことが分かる。

(年齢別の結果)

20歳代の教員の退校時の割合は、18時台は15%、19時台は21%、20時台は37%、21時以降は23%となり、20時台に退校する教員の割合がもっとも高い結果となった。

30歳代の教員の退校時の割合は、18時台は16%、19時台は27%、20時台は22%、21時以降は19%という結果であった。19時台がもっとも高い数値となった。

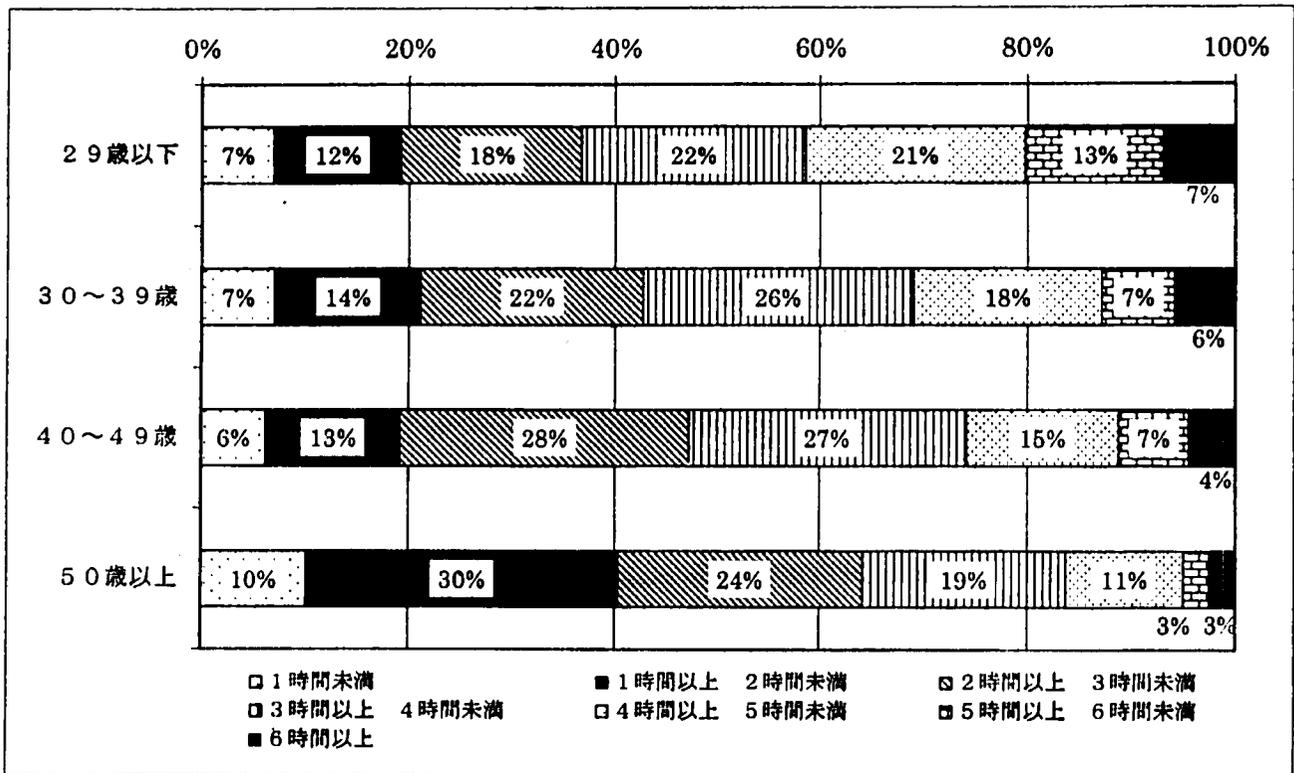
40歳代では、18時台は29%、19時台は22%、20時台は25%、21時以降は9%という結果であった。18時台がもっとも高い数値となった。

50歳以上では、18時台と19時台はともに28%、20時台は13%、21時以降は7%という結果であった。18時台と19時台がもっとも高い数値となった。

問9 平日の勤務時間外(退校後も含む)に行った仕事の時間(年齢別の割合)

【問2 年齢別とのクロス集計結果】

年齢別	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上
	29歳以下	13	23	33	41	40	25
30～39歳	12	24	37	45	31	12	10
40～49歳	11	23	50	48	26	12	8
50歳以上	16	48	38	31	18	4	4



3時間以上仕事をする教員の割合を年齢別で見ると、20歳代63%、30歳代57%、40歳代53%、50歳以上36%という結果であった。20歳代の教員が6割を超え、30歳代、40歳代でも5割を超える結果となった。

(年齢別の結果)

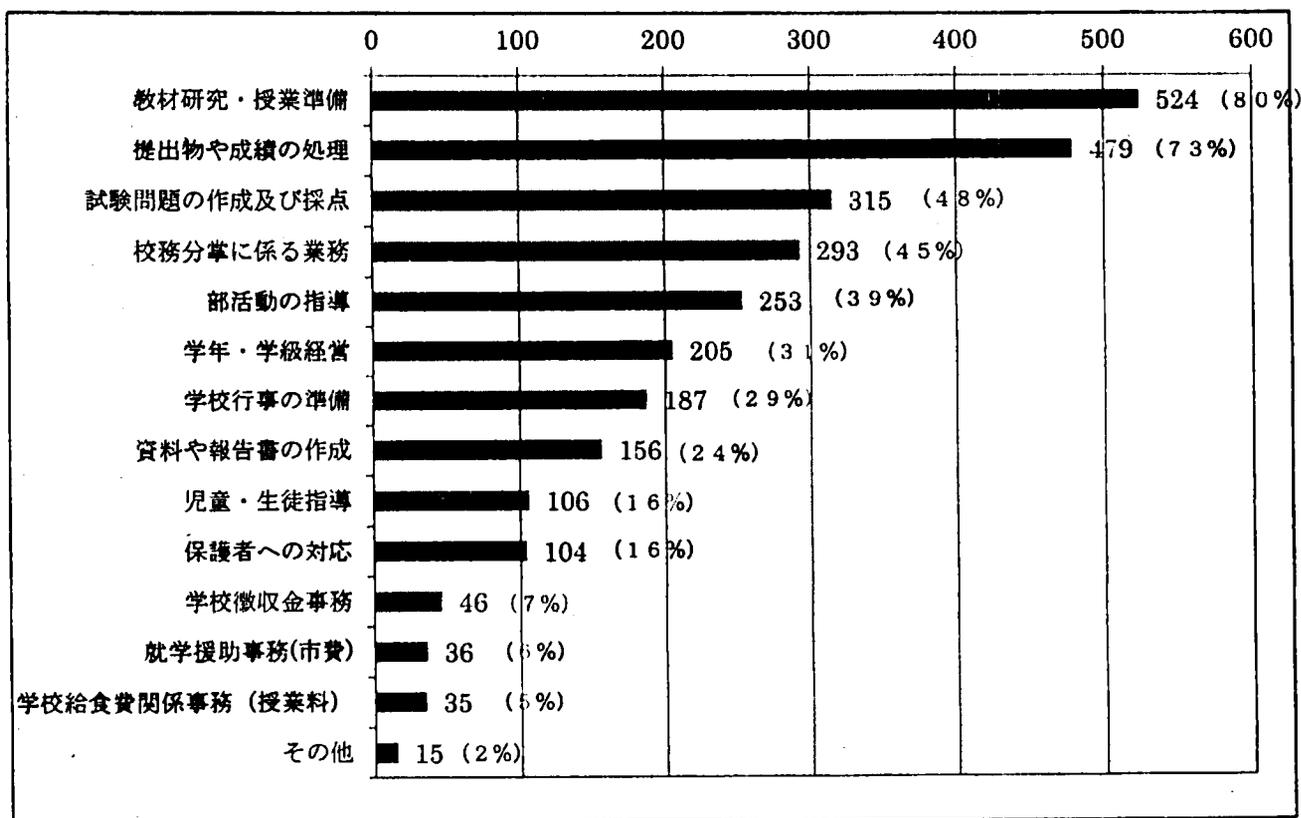
20歳代の教員では、2時間以上が81%、3時間以上は63%、4時間以上が42%という結果となった。30歳代の教員では、2時間以上が79%、3時間以上は57%、4時間以上が31%という結果であった。

また、40歳代の教員では、2時間以上が81%、3時間以上は53%、4時間以上が26%、50歳以上の教員では、2時間以上が60%、3時間以上は36%、4時間以上が17%という結果であった。

このことから、若い年齢層ほど、仕事に要する時間が多いことが分かる。また、勤務時間以外に2時間以上仕事をしている人は、20歳代、30歳代だけでなく、40歳代においても8割を超える結果であった。

問10 平日の勤務時間外(退校後も含む)に行った仕事の内容(複数選択可)

校種	教材研究・授業準備	提出物や成績の処理	試験問題の作成及び採点	校務分掌に係る業務	部活動の指導	学年・学級経営	学校行事の準備	資料や報告書の作成	児童・生徒指導	保護者への対応	学校徴収金事務	就学援助事務(市費)	学校給食費関係事務(授業料)	その他	回答人数
小学校	228	239	148	136	102	98	75	56	26	41	21	11	15	6	299
中学校	144	141	127	75	103	71	65	42	66	42	12	8	8	2	202
高等学校	51	35	39	35	42	11	9	14	7	7				6	83
特別支援学校	66	29	1	26	6	17	8	24	7	11	0	0	1	1	70
幼稚園	35	35		21		8	30	20		3	13	17	11	0	46
全体	524	479	315	293	253	205	187	156	106	104	46	36	35	15	700



「平日の勤務時間外に行った仕事の内容」では、「教材研究・授業準備」が80%と最も高く、次に、「提出物や成績の処理」が73%という結果であった。また、「試験問題の作成及び採点」が48%、「校務分掌に係る業務」が45%であった。

「学校徴収金事務」「就学援助事務」「学校給食費関係事務」については、10%より低い割合を示しているが、これは校務分掌上の担当者が主に行う仕事となっているためであると思われる。

(校種別の割合について)

仕事内容	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	幼稚園
教材研究・授業準備	② 76%	① 71%	① 73%	① 80%	① 76%
提出物や成績の処理	① 80%	② 70%	50%	② 35%	① 76%
試験問題の作成及び採点	③ 49%	③ 63%	③ 56%	1%	
校務分掌に係る業務	45%	37%	50%	③ 31%	46%
部活動の指導	34%	51%	② 60%	7%	
学年・学級経営	33%	35%	16%	20%	17%
学校行事の準備	25%	32%	13%	10%	③ 65%
資料や報告書の作成	19%	21%	20%	29%	43%
児童・生徒指導	9%	33%	10%	8%	
保護者への対応	14%	21%	10%	13%	7%
学校徴収金事務	7%	6%		0%	28%
就学援助事務(市費)	4%	4%		0%	37%
学校給食費関係事務(授業料)	5%	4%		1%	24%
その他	2%	1%	9%	2%	0%

小学校では、「提出物や成績の処理」が80%、「教材研究・授業準備」が76%、次いで「試験問題の作成及び採点」が49%、「校務分掌に係る業務」が45%という結果であった。

中学校では、「教材研究・授業準備」「提出物や成績の処理」が7割程度、次いで「試験問題の作成及び採点」が高い割合を示した。部活動の指導は51%と半数を超えた。

高等学校では、「教材研究・授業準備」が73%、続いて「部活動の指導」が60%という結果であった。「試験問題の作成及び採点」「提出物や成績の処理」と「校務分掌に係る業務」が5割程度であった。高等学校の部活動の指導は、中学校より9ポイント上回る結果となった。

特別支援学校では、「教材研究・授業準備」が80%と高いものの、「提出物や成績の処理」「校務分掌に係る業務」は他の校種に比べ、それほど高くはなかった。

幼稚園では、「教材研究・授業(保育)準備」「提出物や成績(園児記録)の準備」が76%ともっとも高く、次いで「学校(園)行事の準備」が65%、「校(園)務分掌に係る業務」「資料や報告書の作成」が4割を超える結果となった。幼稚園の特徴としては、小・中学校に比べ、「学校徴収金事務」「学校給食費関係事務(授業料)」「就学援助事務(市費)」などの事務処理の業務が24%~37%と高くなっていることである。

業務別に見てみると、「教材研究・授業準備」では、小学校76%、中学校71%、高等学校73%、特別支援学校80%、幼稚園76%であり、どの校種とも7割を越えていた。

「提出物や成績の処理」では、小学校80%、中学校70%、高等学校50%、特別支援学校35%、幼稚園76%という結果であった。担任としての業務として、7月には通知表等の作成があることから、小学校と中学校で、多くの時間を費やしていることが分かった。

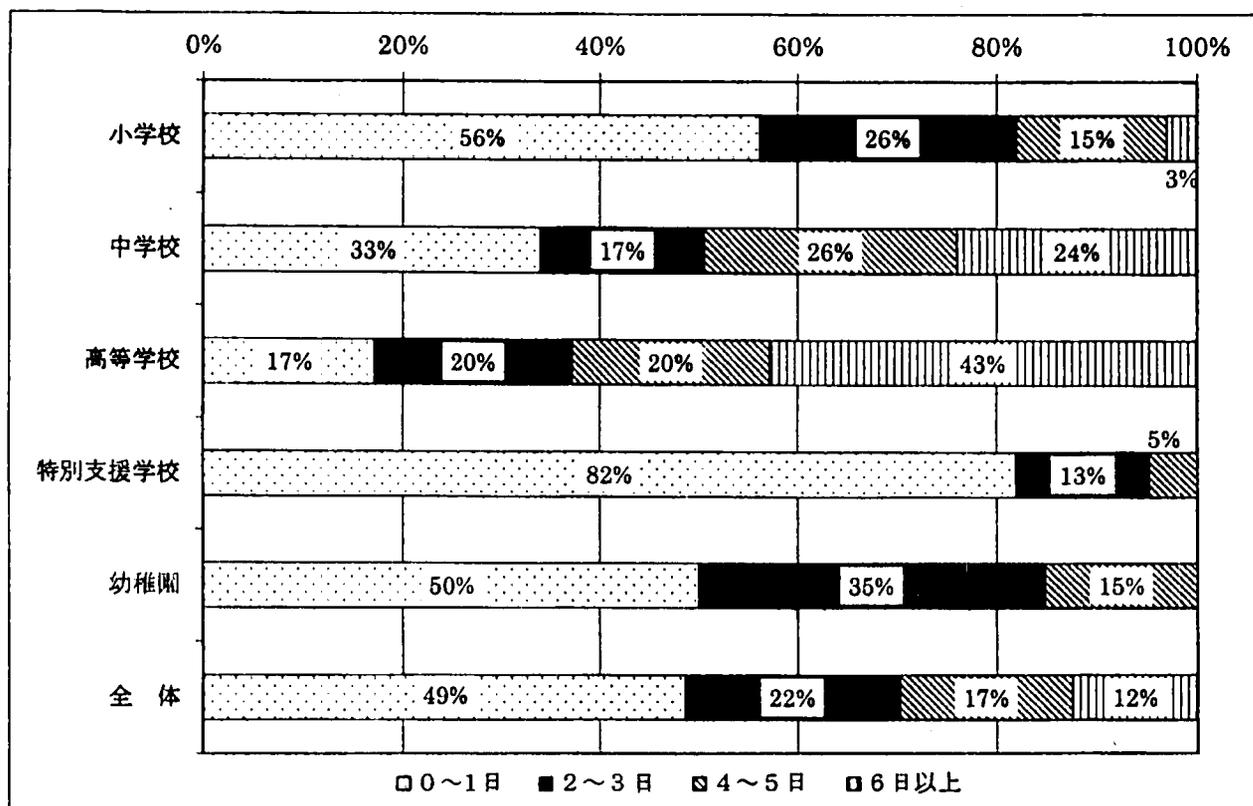
「校務分掌にかかる業務」は、小学校45%、中学校37%、高等学校50%、特別支援学校31%、幼稚園46%という結果であった。「学校徴収金事務」「学校給食費関係事務」「就学援助事務」などを除いて調査したことが数値に影響していると考えられる。

「部活動の指導」は、高等学校が60%、中学校が51%、小学校が34%という結果であった。部活動の指導をほとんどの教員が担当している高等学校においては、「教材研究・授業準備」に次ぎ2番目に高い割合となった。

問 1 1 休日（勤務を要しない日）に出勤した1か月あたりの日数

校 種	0～1日	2～3日	4～5日	6日以上	合計
小学校	168	77	45	9	299
中学校	68	33	51	48	200
高等学校	12	14	14	30	70
特別支援学校	68	11	4	0	83
幼稚園	23	16	7	0	46
全 体	339	151	121	87	698

未記入1
未記入2



全体では、51%の教員が休日に1か月あたり2日以上出校しており、4日以上は29%、6日以上は12%という結果であった。

(校種別の結果)

小学校では、2日以上が44%、4日以上が18%、中学校では、2日以上が67%、4日以上が50%、6日以上が24%という結果であった。中学校では、小学校と比べると、4日以上が32ポイント高い結果となった。

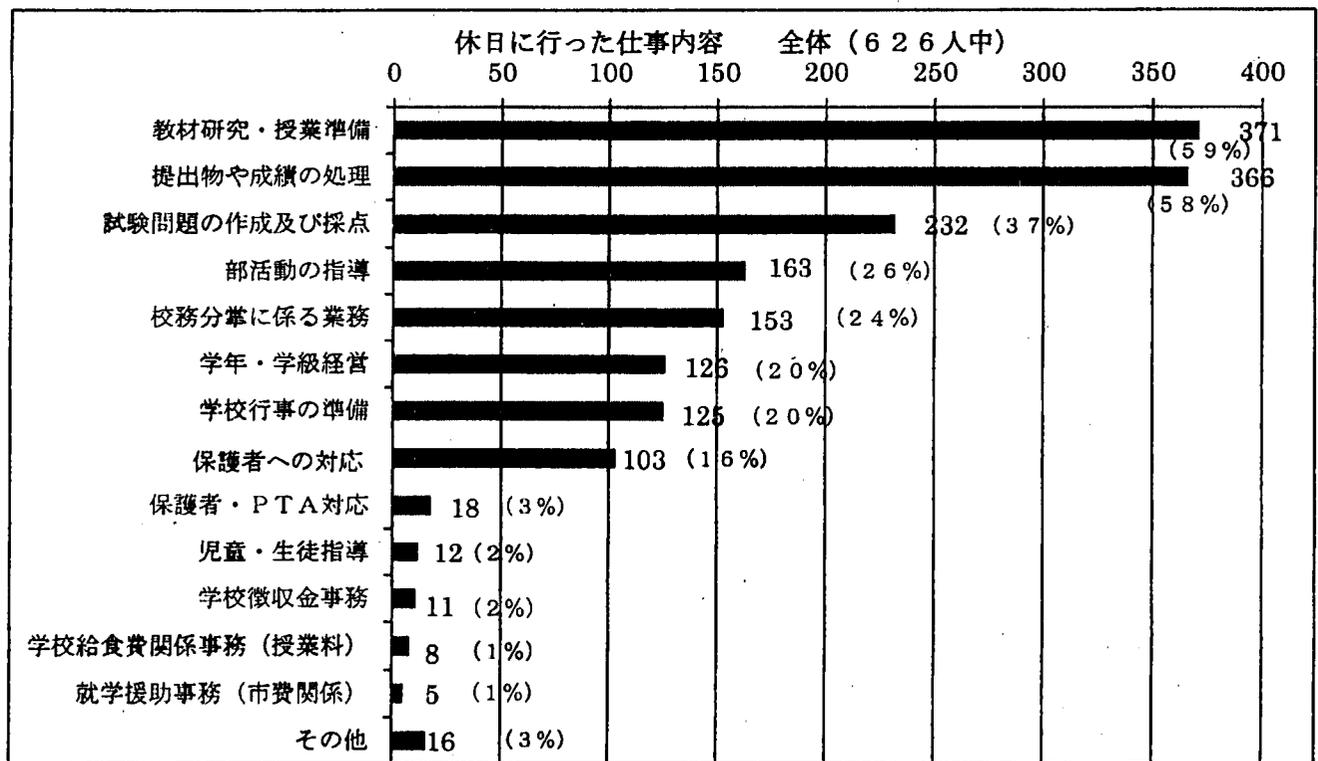
また、高等学校では、2日以上が83%、4日以上が63%、6日以上が43%という結果であった。それぞれ中学校を上回る結果となった。

特別支援学校では、2日以上が18%、4日以上が5%であり、他の校種に比べ、出校日数はそれほど多くはなかった。

幼稚園では、2日以上が50%、4日以上が15%という結果であった。

問12 休日に行った仕事（学校外も含む）の主な内容（複数選択可）

校種	教材研究・授業準備	提出物や成績の処理	試験問題の作成及び採点	部活動の指導	校務分掌に係る業務	学年・学級経営	学校行事の準備	資料や報告書の作成	保護者への対応	児童・生徒指導	学校徴収金事務	学校給食費関係事務（授業料）	就学援助事務（市費関係）	その他	回答人数
小学校	180	205	107	9	74	59	44	45	3	3	1	6	1	8	263
中学校	91	105	98	102	38	46	48	24	9	7	5	1	2	0	184
高等学校	26	23	26	47	17	8	6	8	3	1				6	69
特別支援学校	44	12	1	5	15	6	6	12	3	1	0	0	0	1	64
幼稚園	30	21			9	7	21	14	0		5	1	2	1	46
全体	371	366	232	163	153	126	125	103	18	12	11	8	5	16	626



休日の仕事内容としては、「教材研究・授業準備」「提出物や成績の処理」が6割近く、続いて、「試験問題の作成及び採点」が37%、「部活動の指導」が26%、「校務分掌に係る業務」が24%であった。

休日にも、「教材研究・授業準備」「提出物や成績の処理」を行っていることから、勤務時間内では十分な時間がとれないことが分かる。

(校種別の割合について)

仕事内容	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	幼稚園
教材研究・授業準備	②68%	49%	②38%	①69%	①65%
提出物や成績の処理	①78%	①57%	33%	③19%	②46%
試験問題の作成及び採点	③41%	③53%	②38%	2%	
部活動の指導	3%	②55%	①68%	8%	
校務分掌に係る業務	28%	21%	25%	②23%	20%
学年・学級経営	22%	25%	12%	9%	15%
学校行事の準備	17%	26%	9%	9%	②46%
資料や報告書の作成	17%	13%	12%	③19%	30%
保護者への対応	1%	5%	4%	5%	0%
児童・生徒指導	1%	4%	1%	2%	
学校徴収金事務	0%	3%		0%	11%
学校給食費関係事務(授業料)	2%	1%		0%	2%
就学援助事務(市費)	0%	1%		0%	4%
その他	3%	2%	9%	0%	2%

「休日に行った主な業務」を校種別に見ていくと、小学校では、「提出物や成績の処理」が78%、「教材研究・授業準備」が68%と高い割合であった。

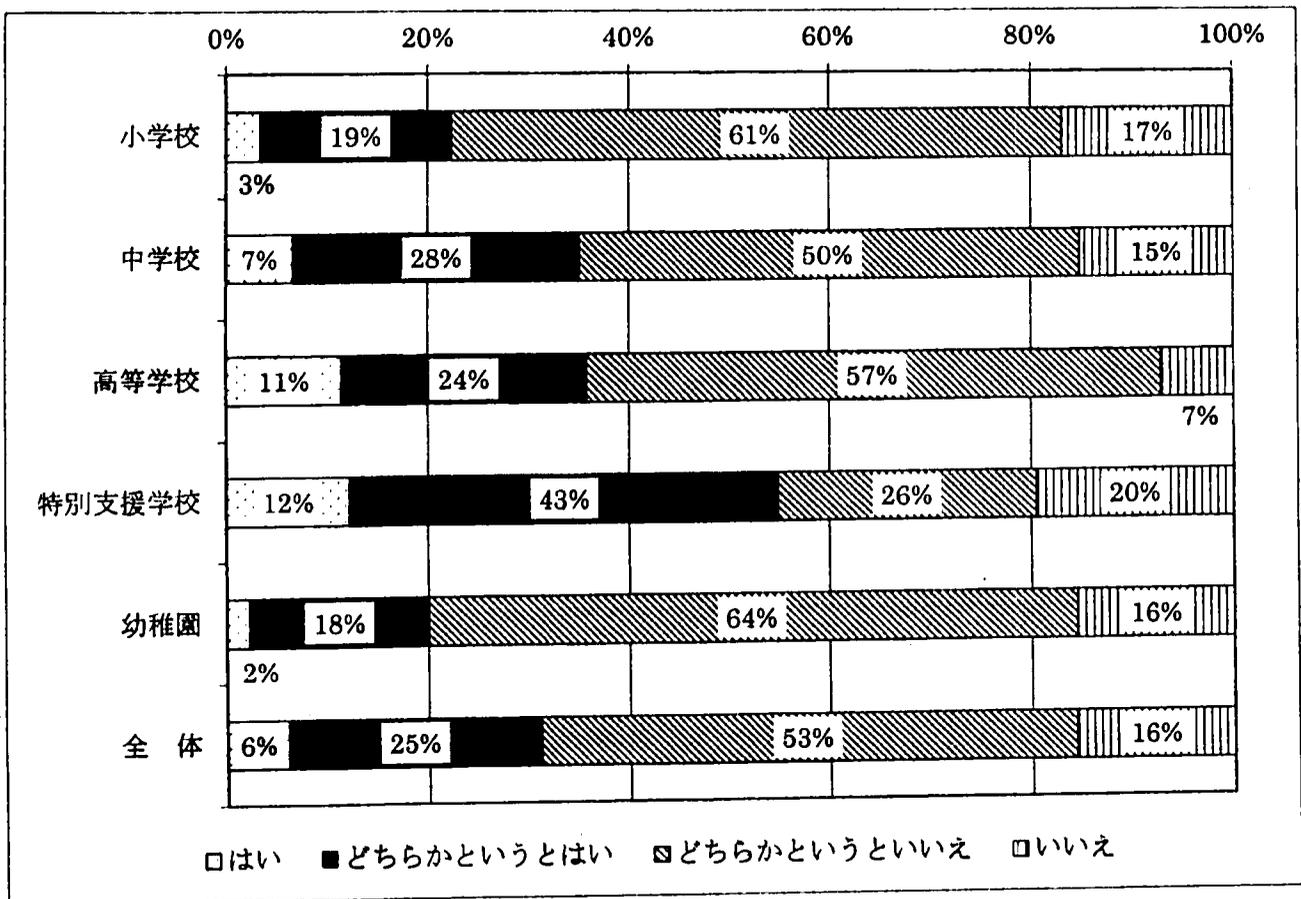
中学校では、「提出物や成績の処理」が57%、「部活動の指導」が55%、「試験問題の作成及び採点」が53%、「教材研究・授業準備」が49%という結果であった。

また、高等学校では、「部活動の指導」が68%ともっとも高かった。特別支援学校では、「教材研究・授業準備」が69%、幼稚園では、「教材研究・授業準備」が65%、「提出物や園児記録(成績)の処理」と「園(学校)行事の準備」がともに46%という結果であった。

どの校種でも、「提出物や成績の処理」「教材研究・授業準備」が上位にあり、平日だけでは十分な時間がとれず、休日にも仕事を行っていることが分かる。

問 1 3 教材研究や授業準備（十分な時間がとれているか）

校 種	はい	どちらかという はい	どちらかという いいえ	いいえ	合計	
小学校	10	56	180	50	296	未記入 4
中学校	13	56	98	30	197	未記入 5
高等学校	8	17	40	5	70	
特別支援学校	10	35	21	16	82	未記入 1
幼稚園	1	8	29	7	45	未記入 1
全 体	42	172	368	108	690	

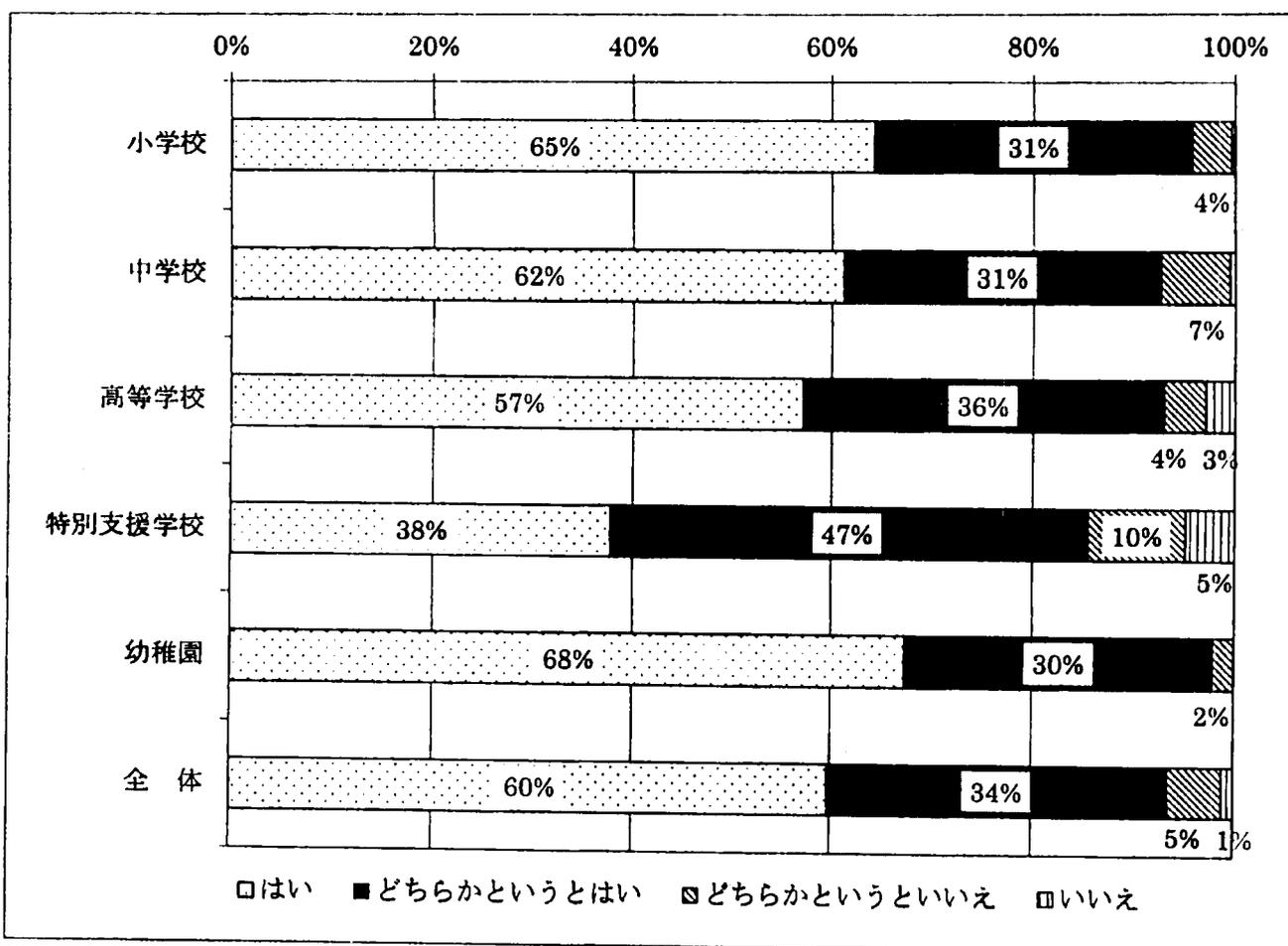


「教材研究や授業準備に十分な時間がとれていたか」の問いに対して、全体では、「どちらかというといいえ」が53%、「いいえ」が16%、あわせると69%となった。7割程度の教員が「十分な時間がとれていない」という状況が分かった。

教員のもっとも大切な仕事である「授業」のための準備に十分な時間をとることができるようにしていく必要があるといえる。

問14 教員の多忙感

校種	はい	どちらかという はい	どちらかという いいえ	いいえ	合計	
小学校	192	94	12	1	299	未記入1
中学校	123	63	14	1	201	未記入1
高等学校	40	25	3	2	70	
特別支援学校	31	39	8	4	82	未記入1
幼稚園	31	14	1	0	46	
全体	417	235	38	8	698	

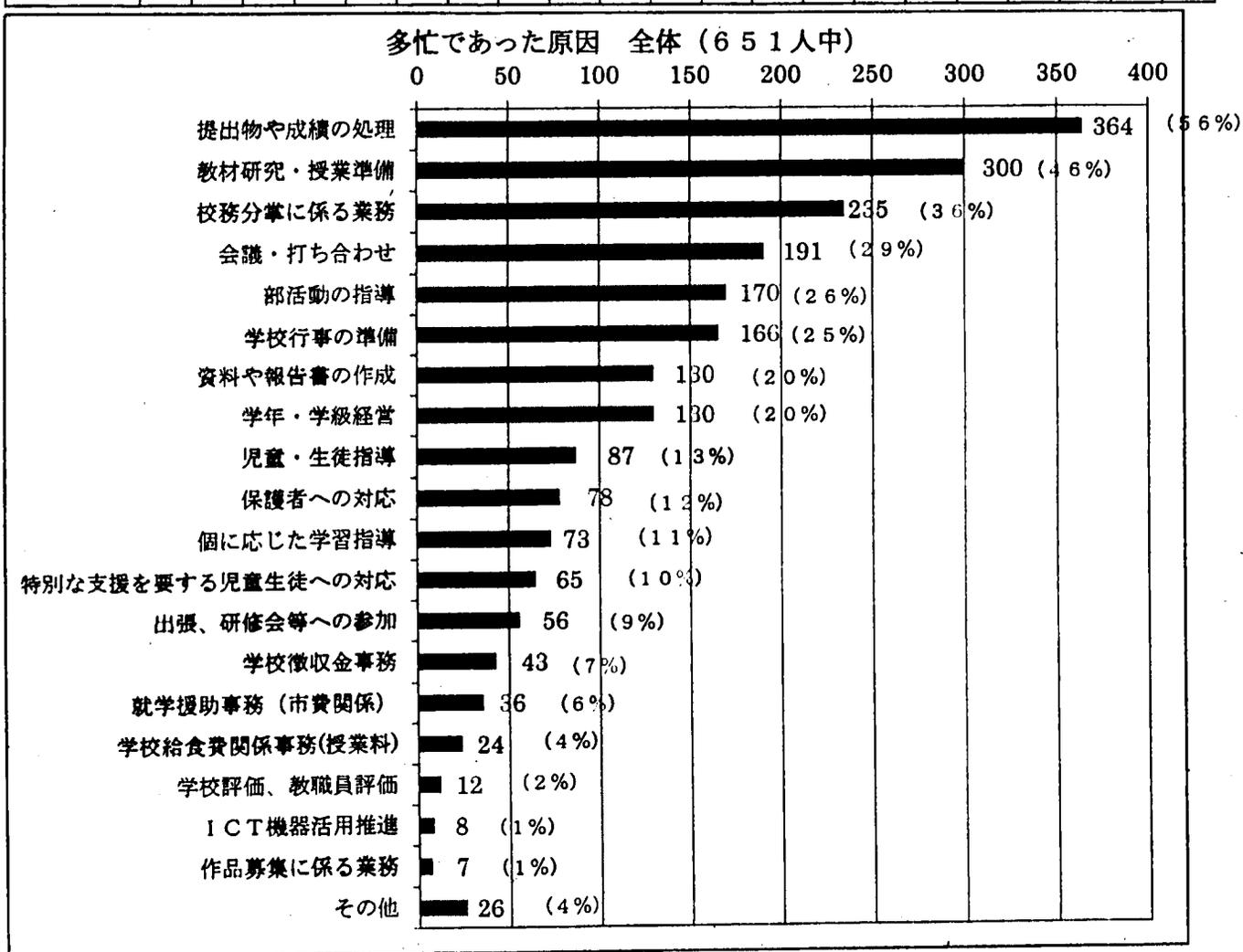


全体では、「はい」が60%と最も高く、次いで「どちらかというはい」が34%、「どちらかといういいえ」が5%、「いいえ」が1%であった。「はい」「どちらかというはい」を合わせてみると、94%という結果であった。

どの校種においても、9割近くかそれ以上の割合を示した。このことから、ほとんどの教員が、6月から7月の自分の職務について「忙しい」と感じていると思われる。

問15 多忙であった主な原因（複数選択可）

校種	提出物や成績の処理	教材研究・授業準備	校務分掌に係る業務	会議・打ち合わせ	部活動の指導	学校行事の準備	資料や報告書の作成	学年・学級経営	児童・生徒指導	保護者への対応	個に応じた学習指導	特別な支援を要する児童生徒への対応	出張、研修会等への参加	学校徴収金事務	就学援助事務（市費関係）	学校給食費関係事務（授業料）	学校評価、教職員評価	ICT機器活用推進	作品募集に係る業務	その他	回答人数
小学校	196	146	104	63	72	58	57	63	28	35	28	34	20	23	11	13	7	3	5	8	297
中学校	97	67	60	64	61	60	36	43	44	26	19	14	9	10	9	4	4	1	2	5	174
高等学校	30	32	34	23	31	10	10	17	8	5	11	6	10				0	1	0	10	65
特別支援学校	19	30	23	28	6	9	15	6	7	7	15	6	5	0	0	1	0	1	0	0	70
幼稚園	22	25	14	13		29	12	1		5		5	12	10	16	6	1	2		3	45
全体	364	300	235	191	170	166	130	130	87	78	73	65	56	43	36	24	12	8	7	26	651



全体では、「提出物や成績の処理」が56%で最も高く、次いで「教材研究・授業準備」が46%、「校務分掌に係る業務」が36%という結果であった。続いて、「会議・打ち合わせ」が29%、「部活動の指導」が26%、「学校行事の準備」が25%であった。

(多忙であった原因 校種別の割合について)

仕事の内容	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	幼稚園
提出物や成績の処理	①66%	①56%	46%	27%	③49%
教材研究・授業準備	②49%	②39%	②49%	①43%	②56%
校務分掌に係る業務	③35%	34%	①52%	③33%	31%
会議・打ち合わせ	21%	③37%	35%	②40%	29%
部活動の指導	24%	35%	③48%	9%	
学校行事の準備	20%	34%	15%	13%	①64%
資料や報告書の作成	19%	21%	15%	21%	27%
学年・学級経営	21%	25%	26%	9%	2%
児童・生徒指導	9%	25%	12%	10%	
保護者への対応	12%	15%	8%	10%	11%
個に応じた学習指導	9%	11%	17%	21%	
特別な支援を要する児童生徒への対応	11%	8%	9%	9%	11%
出張、研修会等への参加	7%	5%	15%	7%	27%
学校徴収金事務	8%	6%		0%	22%
就学援助事務(市費関係)	4%	5%		0%	36%
学校給食費関係事務(授業料)	4%	2%		1%	13%
学校評価、教職員評価	2%	2%	0%	0%	2%
I C T機器活用推進	1%	1%	1%	1%	4%
作品募集に係る業務	2%	1%		0%	
その他	3%	3%	3%	0%	3%

校種の特徴を見てみると、高等学校では、「校務分掌に係る業務」が他の校種より20ポイントほど高い。また、特別支援学校では、「会議・打ち合わせ」の割合が他の校種よりやや高い結果となった。幼稚園では、「学校(園)行事の準備」が他の校種に比べ、かなり高い結果となった。

(校種別の結果)

小学校は「提出物や成績の処理」が66%、「教材研究・授業準備」が49%、「校務分掌に係る業務」が35%、「部活動の指導」が24%であった。

中学校は「提出物や成績の処理」が56%、「教材研究・授業準備」が39%、「会議・打ち合わせ」が37%、「部活動の指導」が35%、「校務分掌に係る業務」と「学校行事」が34%という結果であった。

高等学校は「校務分掌に係る業務」が52%、「教材研究・授業準備」が49%、「部活動の指導」が48%、「提出物や成績の処理」が46%であった。

特別支援学校では「教材研究・授業準備」が43%、「会議・打ち合わせ」が40%、「校務分掌に係る業務」が33%、次いで「提出物や成績の処理」が27%であった。

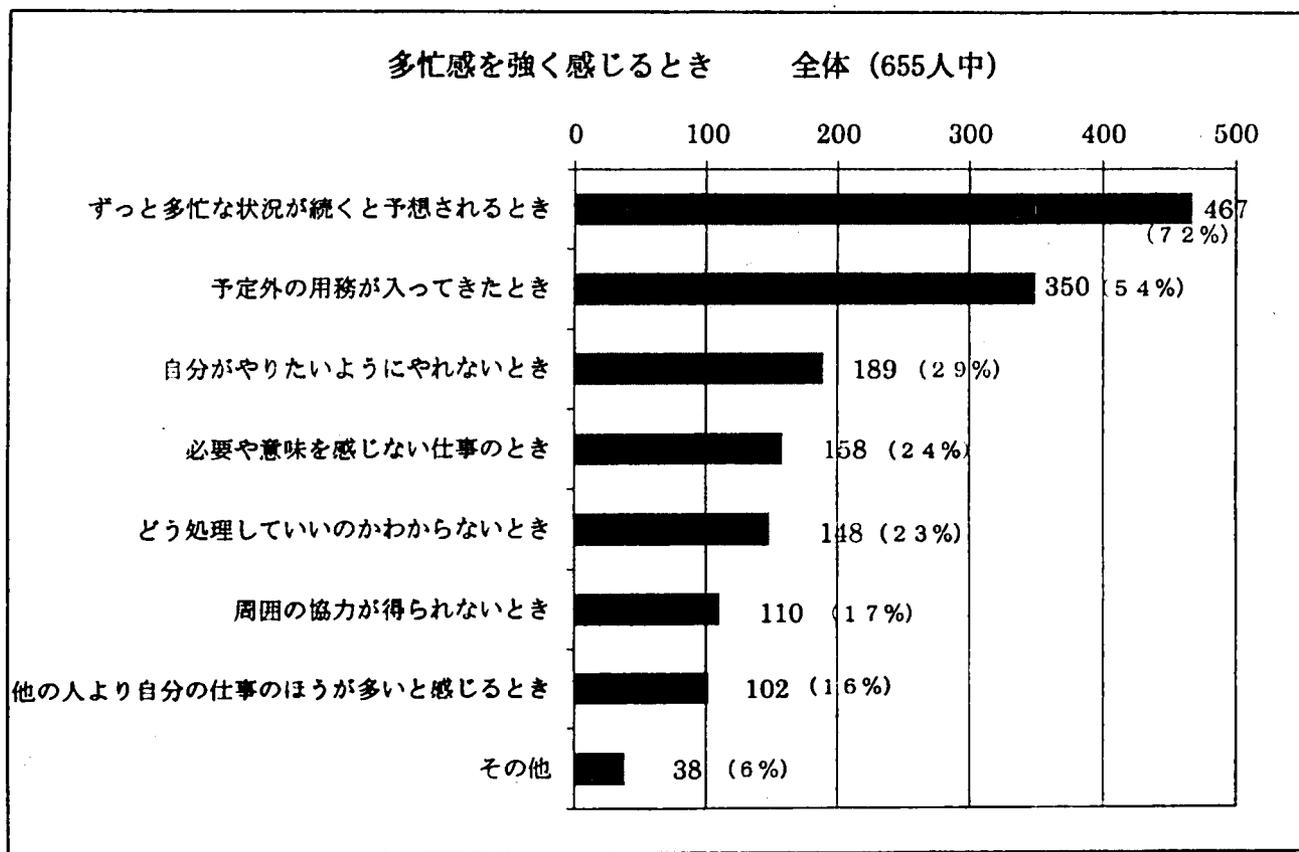
幼稚園では、「学校(園)行事の準備」が64%、「教材研究・保育(授業)準備」が56%、「提出物や園児記録(成績)の処理」が49%、次いで「市費関係事務」が36%という結果であった。

問16 多忙感を強く感じるとき（複数選択可）

校 種	ずっと多忙な状況が続くと予想されるとき	予定外の用務が入ってきたとき	自分がやりたいようにやれないとき	必要や意味を感じない仕事するとき	どう処理していいのかわからないとき	周囲の協力が得られないとき	他の人より自分の仕事のほうが多いと感じるとき	その他	回 答 人 数
小学校	219	144	93	67	65	29	29	9	297
中学校	130	101	42	44	43	22	40	10	174
高等学校	42	43	20	24	11	43	14	9	69
特別支援学校	45	35	19	16	13	9	18	4	70
幼稚園	31	27	15	7	16	7	1	6	45
全 体	467	350	189	158	148	110	102	38	655

感じない4

感じない1

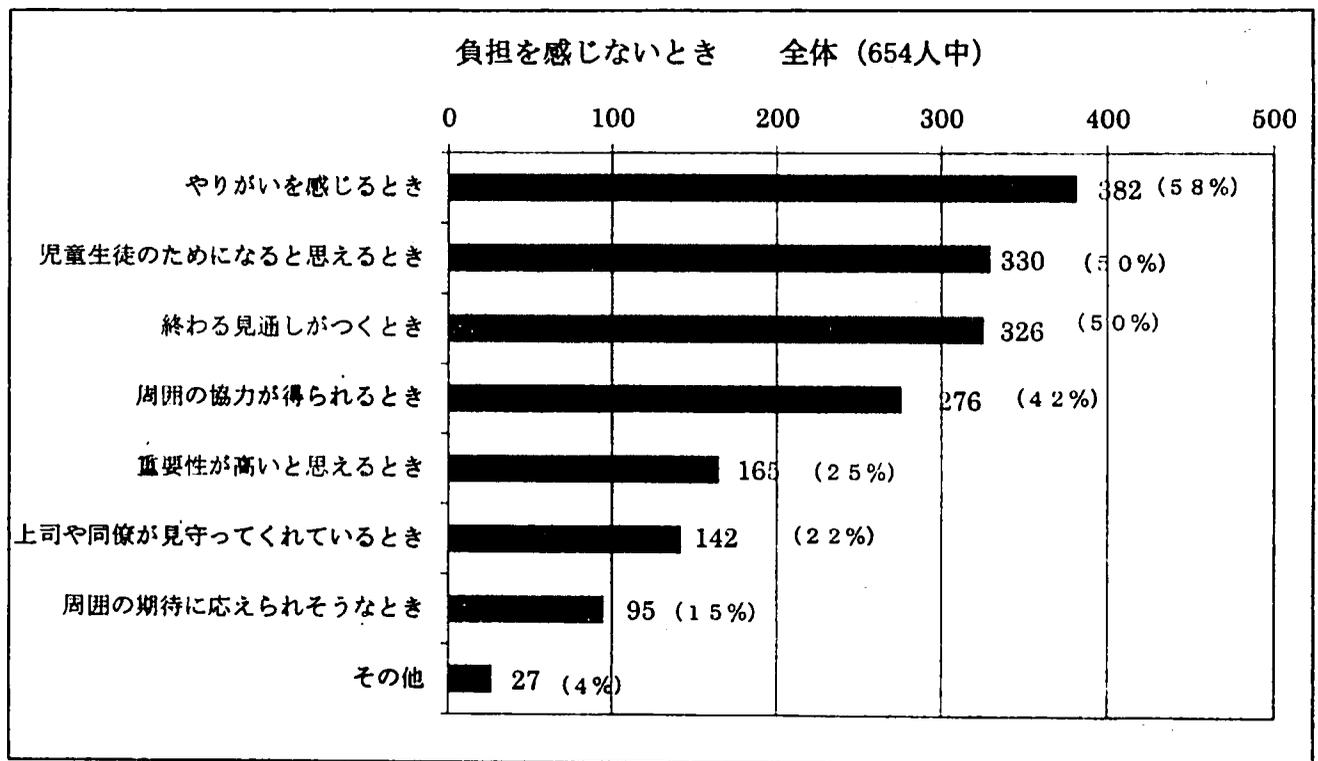


「ずっと多忙な状況が続くと予想されるとき」が72%、次いで「予定外の用務が入ってきたとき」が54%であり、この2つの項目が他に比べて高い結果となった。

また、「自分がやりたいようにやれないとき」が29%、「必要や意味を感じない仕事するとき」「どう処理していいのかわからないとき」は20%程度であった。「周囲の協力が得られないとき」といった同僚との関係の中で発生する多忙感は17%と低かった。

問17 忙しくても負担を感じないとき（複数選択可）

校種	やりがいを感じるとき	児童生徒のためになると思えるとき	終わる見通しがつくとき	周囲の協力が得られるとき	重要性が高いと思えるとき	上司や同僚が見守ってくれているとき	周囲の期待に応えられそうなき	その他	回答人数
小学校	170	151	165	106	63	66	22	4	297
中学校	96	80	85	72	48	37	23	13	174
高等学校	44	40	21	43	23	11	40	4	69
特別支援学校	47	35	34	35	22	12	7	4	70
幼稚園	25	24	21	20	9	16	3	2	44
全体	382	330	326	276	165	142	95	27	654



「やりがいを感じる時」が58%と最も高く、次いで、「児童生徒のためになると思える時」と「終わる見通しがつく時」は50%であった。この結果から、仕事に対する満足感や成就感を感じる時に、多忙感は幾分和らぐものと思われる。また、「周囲の協力が得られる時」が42%、「上司や同僚が見守ってくれている時」が22%という結果であった。このことから、一人で抱え込まないように管理職や同僚が支援することが、多忙感を和らげることにつながると思われる。

(校種別の割合について)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	幼稚園
やりがいを感じる時	①57%	①55%	①64%	①67%	①57%
児童生徒のためになると思える時	③51%	③46%	③58%	②50%	②55%
終わる見通しがつく時	②56%	②49%	30%	49%	③48%
周囲の協力が得られる時	36%	41%	②62%	②50%	45%
重要性が高いと思える時	21%	28%	33%	31%	20%
上司や同僚が見守ってくれている時	22%	21%	16%	17%	36%
周囲の期待に応えられそうな時	7%	13%	③58%	10%	7%
その他	1%	7%	6%	6%	5%

校種別に見ると、小学校では、「やりがいを感じる時」が57%、「終わる見通しがつく時」が56%、「児童生徒のためになると思える時」が51%と高い結果となった。

中学校でも、「やりがいを感じる時」が55%、「終わる見通しがつく時」が49%、「児童生徒のためになると思える時」が46%と高い結果となった。

高等学校では、「やりがいを感じる時」が64%、「周囲の協力が得られる時」が62%、「児童生徒のためになると思える時」「周囲の期待に応えられそうな時」が58%であった。高等学校での特徴としては、「周囲の期待に応えられそうな時」が58%と、他の校種に比べ高い結果となった。

特別支援学校では、「やりがいを感じる時」が67%で最も高い。「児童生徒のためになると思える時」と「周囲の協力が得られる時」とが50%、次に「終わる見通しがつく時」が49%であった。

幼稚園では、「やりがいを感じる時」が57%、「園児（児童生徒）のためになると思える時」が55%であった。次いで「終わる見通しがつく時」が48%、「周囲の協力が得られる時」が45%という結果であった。

2 自由記述の結果

問10 平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の主な内容は、次のうちどれですか。

校種	14：その他（ ）の記述内容
小学校 (6人)	救急処置。学年花壇。教材園の仕事。教材園の管理。歯科内科検診準備・片付け。検診結果打ち込み。学校外に関する業務。中津川野外学習。等
中学校 (2人)	教育実習生の指導。進路指導。等
高等学校 (6人)	部活動の大会運営に関する事務。小冊子の編集。体験学習の事前準備。大会参加のための準備。職員会議。等
特別支援学校 (1人)	関係団体との会合。等
幼稚園 (0人)	なし

問12 休日に行った仕事（学校外も含む）の主な内容は次のうちどれですか。

校種	14：その他（ ）の記述内容
小学校 (8人)	教材園の管理。学区・地域にかかわる行事。研究。PTA活動。等
中学校 (4人)	部活公式試合役員。研究会資料作成。PTAの行事。等
高等学校 (6人)	高体連・協会の仕事。教科研究会。連盟行事の企画運営。生徒会合宿。競技大会の手伝い。等
特別支援学校 (0人)	なし
幼稚園 (1人)	入園関係

問15 あなたが多忙であった主な原因は、次のうちどれですか。

校種	20：その他（ ）の記述内容
小学校 (8人)	校外での研修や学習会。救急処置や病院への搬送。自分の要領が悪い。教育実習。健康診断。保健室来室者の対応。日々の多忙の積み重ね。検診準備や集計事務。等
中学校 (5人)	清掃・備品点検。業者対応。PTAの仕事。進路指導。等
高等学校 (10人)	教育実習生の指導。高体連・協会の仕事。部活動の大会運営に関する事務。高文連や合唱連盟の仕事。外部行事の企画運営。勤務時間内ではとうてい終わらない総仕事量。進路対応。等
特別支援学校 (0人)	なし
幼稚園 (3人)	仕事の見通し悪く、仕事が遅い。水遊びの準備片付け。入園書類準備。等

問 16 あなたが多忙だと強く感じる時はどんなときですか。

校 種	9：その他（ ）の記述内容
小学校 (9人)	睡眠時間が減ったとき。仕事たまっているとき。力不足。成績処理。保護者対応。帰宅時間が遅くなる日が続くとき。忙しいけれど、誰にも声をかけてもらえないとき。休日まで出勤しなければいけないほど仕事たまっているとき。 等
中学校 (10人)	学校や担任の仕事が多すぎるとき。疲れがとれず、休みたくても休めないとき。睡眠不足のとき。困難な生徒指導が続くとき。自分のこだわりで多くしているとき。週に3～4回会議が入ってくる時。健康に不安があり、仕事が自分の能力以上のものであると感じたとき。その日に予定していた仕事が翌日などに残っていくとき。家族と過ごす時間が少ないと感じるとき。家族のことに両立するとき(仕事は夜子どもが寝てからやらないといけない) 等
高等学校 (9人)	期日のある仕事や他の人と調整が必要な仕事が重なり、物理的にさばききれなくなってきたとき。週末に全く休めないとき。土日の予定が全て埋まっていて休みがなく、いつ休めるのかと考えるとき。時間外で仕事に携われる時間も無限にはとれないため、つねに不十分感、不満足感があるとき。余暇の時間が取れないとき。成績・要録関係の書類がシステム化されていないため、二度手間を感じる時。昼食をとれないこともあるほど休憩時間がないときがある。他の人より仕事が多いとは思わないが、学校全体がとにかく忙しいとき。小冊子の編集が続くとき。人が努力したことを目の前で否定されるとき。会議が長引くとき。 等
特別支援学校 (4人)	仕事が多いとき。やるべきことがいくつもあり、一つ一つ十分に組み立てる時間がないとき。会議や現職教育が続くとき。自分の仕事以外のことで、中断あるいは時間を多くとられるとき。 等
幼稚園 (6人)	家族への負担が大きくなる時。休日に仕事をしたり、持ち帰りの仕事をしたりすることが多いとき。家に帰って、家事に手がまわらないとき。勤務時間後、自分の仕事にキリをつけられず、自分の子どものお迎えや用事にかかわれないとき。健康を害した時。仕事が終わっていかないとき。行事が続いて準備が大変なとき。 等

問 17 忙しくても負担を感じない時はどんなときですか。

校 種	8：その他（ ）の記述内容
小学校 (4人)	成果が得られたとき。忙しいのに負担を感じないはずはない。忙しければ、負担を感じる。負担があるから忙しい。よく眠れるとき。体調がいいとき。 等
中学校 (13人)	負担を感じないときなどない。 忙しいと負担は違うので、忙しいと思っても負担には思わない。 次々にやらなければならないことがあるから、負担を感じないわけではない。 等
高等学校 (4人)	週に1回程度はきちんと休養できる時。忙しければ必ず負担となる。 土日に休める時。 等
特別支援学校 (4人)	そんな時はない。負担はどこかで感じている。 等
幼稚園 (2人)	支えていただいていることを実感できる時。 仕事と家庭の両立ができている時。 等

3 アンケート用紙

教員の勤務実態に関するアンケート

小・中・特別支援学校用

この調査は、教員の勤務状況及び多忙感についての実態を把握し、教員が児童生徒とふれあう時間を確保することや教員の多忙感を軽減する方策について考えるための基礎資料の作成を目的としています。

回答は無記名で、個人や学校を特定できるような集計はいたしません。アンケートへのご協力をお願いいたします。なお、提出は、各学校の教頭先生までお渡しください。

名古屋市教育委員会

選択式の回答については、特に指示のないもの以外、当てはまるものを1つ選び、番号を○で囲んでください。

あなたのことについてお聞きします。

- 問1 性別（ 1：男 2：女 ）
問2 年齢（ 1：29歳以下 2：30～39歳 3：40～49歳 4：50歳以上 ）
問3 経験年数（ 1：1～10年 2：11～20年 3：21～30年 4：31年以上 ）
問4 学校種（ 1：小学校 2：中学校 3：特別支援学校 ）
問5 学級担任の有無（ 1：担任をしている 2：担任をしていない ）
問6 一週あたりの授業時間数（ ）時間
問7 部活動指導の有無（ 1：部活動を担当している 2：担当していない ）

あなたの、6月から7月（夏季休業中は除く）までのことについてお聞きします。

- 問8 何時頃退校することが多かったですか。
1：16時台 2：17時台 3：18時台
4：19時台 5：20時台 6：21時以降
- 問9 平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の時間は、一日に何時間くらいでしたか。
1：1時間未満 2：1時間以上2時間未満 3：2時間以上3時間未満
4：3時間以上4時間未満 5：4時間以上5時間未満 6：5時間以上6時間未満
7：6時間以上

問10 平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の主な内容は、次のうちどれですか。

ただし、「8 校務分掌に係る業務」は、「10～12」以外の業務と考えてください。

（複数選択可）

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1：教材研究・授業準備 | 2：提出物や成績の処理 | 3：試験問題の作成及び採点 |
| 4：児童・生徒指導 | 5：部活動の指導 | 6：学年・学級経営 |
| 7：学校行事の準備 | 8：校務分掌に係る業務 | 9：資料や報告書の作成 |
| 10：就学援助事務 | 11：学校給食費関係事務 | 12：学校徴収金事務 |
| 13：保護者への対応 | 14：その他（ ） | |

問11 休日（勤務を要しない日）に出勤して仕事をした日数は、一か月あたりどのくらいでしたか。

- 1：0～1日 2：2～3日 3：4～5日 4：6日以上

問 12 休日に行った仕事（学校外も含む）の主な内容は次のうちどれですか。

ただし、「8 校務分掌に係る業務」は、「10～12」以外の業務と考えてください。

（複数選択可）

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1：教材研究・授業準備 | 2：提出物や成績の処理 | 3：試験問題の作成及び採点 |
| 4：児童・生徒指導 | 5：部活動の指導 | 6：学年・学級経営 |
| 7：学校行事の準備 | 8：校務分掌に係る業務 | 9：資料や報告書の作成 |
| 10：就学援助事務 | 11：学校給食費関係事務 | 12：学校徴収金事務 |
| 13：保護者への対応 | 14：その他（ | ） |

問 13 あなたは、教材研究や授業準備に十分な時間がとれていましたか。

- 1：はい 2：どちらかというとはい 3：どちらかというといいえ 4：いいえ

問 14 6月から7月の自分の職務について、忙しいと感じましたか。

- 1：はい 2：どちらかというとはい 3：どちらかというといいえ 4：いいえ

問 15 問 14 で1または2と回答した方にお聞きします。あなたが多忙であった主な原因は、次のうちどれですか。ただし、「2 校務分掌に係る業務」は、「17～19」以外の業務と考えてください。

（複数選択可）

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1：会議・打合せ | 2：校務分掌に係る業務 |
| 3：個に応じた学習指導 | 4：児童・生徒指導 |
| 5：特別な支援を要する児童生徒への対応 | 6：学校行事の準備 |
| 7：出張、研修会等への参加（資料準備を含む） | 8：資料や報告書の作成 |
| 9：ICT機器活用推進 | 10：提出物や成績の処理 |
| 11：教材研究・授業準備 | 12：保護者への対応 |
| 13：部活動の指導 | 14：学年・学級経営 |
| 15：作品募集に係る業務 | 16：学校評価、教職員評価 |
| 17：就学援助事務 | 18：学校給食費関係事務 |
| 19：学校徴収金事務 | 20：その他（ |

問 16 あなたが多忙だと強く感じる時はどんなときですか。（複数選択可）

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1：多忙感を感じる時はない | 2：ずっと多忙な状況が続くと予想される時 |
| 3：他の人より自分の仕事のほうが多いと感じるとき | 4：どう処理していいのかわからないとき |
| 5：自分がやりたいようにやれないとき | 6：予定外の用務が入ってきたとき |
| 7：周囲の協力が得られないとき | 8：必要や意味を感じない仕事のとき |
| 9：その他（ | ） |

問 17 忙しくても負担を感じない時はどんなときですか。（複数選択可）

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1：終わる見通しがつくとき | 2：重要性が高いと思えるとき |
| 3：やりがいを感じる時 | 4：周囲の協力が得られるとき |
| 5：上司や同僚が見守ってくれているとき | 6：児童生徒のためになると思えるとき |
| 7：周囲の期待に応えられそうとき | 8：その他（ |

ご協力ありがとうございました。

教員の勤務実態に関するアンケート

高等学校用

この調査は、教員の勤務状況及び多忙感についての実態を把握し、教員が生徒とふれあう時間を確保することや教員の多忙感を軽減する方策について考えるための基礎資料とすることを目的としています。

回答は無記名で、個人や学校を特定できるような集計はいたしません。アンケートへのご協力をお願いいたします。

名古屋市教育委員会

選択式の回答については、特に指示のないもの以外、当てはまるものを1つ選び、番号を○で囲んでください。

あなたのことについてお聞きします。

- 問1 性別（1：男 2：女）
- 問2 年齢（平成23年4月1日現在）
（1：29歳以下 2：30～39歳 3：40～49歳 4：50歳以上）
- 問3 本務経験年数（平成23年4月1日現在）
（1：10年以下 2：11～20年 3：21～30年 4：31年以上）
- 問4 学級担任の有無（1：担任をしている 2：担任をしていない）
- 問5 一週あたりの授業時間数（ ）時間
- 問6 部活動指導の有無（1：部活動を担当をしている 2：担当していない）

あなたの、6月から7月（夏季休業中は除く）までのことについてお聞きします。

- 問7 何時頃退校することが多かったですか。
1：17時台 2：18時台 3：19時台
4：20時台 5：21時以降
- 問8 平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の時間は、一日に何時間くらいでしたか。
1：1時間未満 2：1時間以上2時間未満 3：2時間以上3時間未満
4：3時間以上4時間未満 5：4時間以上5時間未満 6：5時間以上6時間未満
7：6時間以上
- 問9 平日の勤務時間外（退校後も含む）に行った仕事の主な内容は、次のうちどれですか。
(複数選択可)
1：教材研究・授業準備 2：提出物や成績の処理 3：試験問題の作成及び採点
4：生徒指導 5：部活動指導 6：学年・学級経営
7：学校行事の準備 8：校務分掌に係る業務 9：資料や報告書の作成
10：保護者への対応 11：その他（ ）

教員の勤務実態に関するアンケート

幼稚園用

この調査は、教員の勤務状況及び多忙感についての実態を把握し、教員が園児とふれあう時間を確保することや教員の多忙感を軽減する方策について考えるための基礎資料とすることを目的としています。

回答は無記名で、個人や園を特定できるような集計はいたしません。アンケートへのご協力をお願いいたします。

名古屋市教育委員会

選択式の回答については、特に指示のないもの以外、当てはまるものを1つ選び、番号を○で囲んでください。

あなたのことについてお聞きします。

- 問1 性別（ 1：男 2：女 ）
問2 平成23年4月1日現在の年齢
（ 1：29歳以下 2：30～39歳 3：40～49歳 4：50歳以上 ）
問3 学級担任の有無（ 1：担任をしている 2：担任をしていない ）
問4 本務経験年数（平成23年4月1日現在）
（ 1：10年以下 2：11～20年 3：21～30年 4：31年以上 ）
問5 一週あたりの授業時間数（ ）時間

あなたの、6月から7月（夏季休業中は除く）までのことについてお聞きします。

- 問6 何時頃退園することが多かったですか。
1：17時台 2：18時台 3：19時台
4：20時台 5：21時以降
- 問7 平日の勤務時間外（退園後も含む）に行った仕事の時間は、一日に何時間くらいでしたか。
1：1時間未満 2：1時間以上2時間未満 3：2時間以上3時間未満
4：3時間以上4時間未満 5：4時間以上5時間未満 6：5時間以上6時間未満
7：6時間以上
- 問8 平日の勤務時間外（退園後も含む）に行った仕事の主な内容は、次のうちどれですか。
ただし、「5：園務分掌に係る業務」は、「7～9」以外の業務と考えてください。（複数選択可）
- | | | |
|-------------|---------------|-------------|
| 1：教材研究・保育準備 | 2：提出物や園児記録の処理 | 3：学級経営 |
| 4：園行事の準備 | 5：園務分掌に係る業務 | 6：資料や報告書の作成 |
| 7：市費関係事務 | 8：授業料関係事務 | 9：園徴収金事務 |
| 10：保護者への対応 | 11：その他（ ） | |
- 問9 休日（土・日・祝日・振替休日等、勤務を要しない日）に出勤して仕事をした日数は、一か月あたりどのくらいでしたか。
1：0～1日 2：2～3日 3：4～5日 4：6日以上

問 10 休日（土・日・祝日・振替休日等、勤務を要しない日）に行った仕事（園外も含む）の主な内容は次のうちどれですか。

ただし、「5：園務分掌に係る業務」は、「7～9」以外の業務と考えてください。

（複数選択可）

- | | | |
|-------------|---------------|-------------|
| 1：教材研究・保育準備 | 2：提出物や園児記録の処理 | 3：学級経営 |
| 4：園行事の準備 | 5：園務分掌に係る業務 | 6：資料や報告書の作成 |
| 7：市費関係事務 | 8：授業料関係事務 | 9：園徴収金事務 |
| 10：保護者への対応 | 11：その他（ | ） |

問 11 あなたは、教材研究や保育準備に十分な時間がとれていましたか。

- 1：はい 2：どちらかというとはい 3：どちらかというといいえ 4：いいえ

問 12 6月から7月の自分の職務について、忙しいと感じましたか。

- 1：はい 2：どちらかというとはい 3：どちらかというといいえ 4：いいえ

問 13 問 10 で1または2と回答した方にお聞きします。あなたが多忙であった主な原因は、次のうちどれですか。

ただし、「2：園務分掌に係る業務」は、「13～15」以外の業務と考えてください。（複数選択可）

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1：会議・打合せ | 2：園務分掌に係る業務 |
| 3：特別な支援を要する園児への対応 | 4：園行事の準備 |
| 5：出張、研修会等への参加（資料準備を含む） | 6：資料や報告書の作成 |
| 7：コンピュータ機器活用推進 | 8：提出物や園児記録の処理 |
| 9：教材研究・保育準備 | 10：保護者への対応 |
| 11：学級経営 | 12：学校評価、教職員評価 |
| 13：市費関係事務 | 14：授業料関係事務 |
| 15：園徴収金事務 | 16：その他（ |

問 14 あなたが多忙だと強く感じる時はどんなときですか。（複数選択可）

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1：多忙感を感じることはない | 2：ずっと多忙な状況が続くと予想される時 |
| 3：他の人より自分の仕事のほうが多いと感じるとき | 4：どう処理していいのかわからないとき |
| 5：自分がやりたいようにやれないとき | 6：予定外の用務が入ってきたとき |
| 7：周囲の協力が得られないとき | 8：必要や意味を感じない仕事のとき |
| 9：その他（ | ） |

問 15 忙しくても負担を感じない時はどんなときですか。（複数選択可）

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1：終わる見通しがつくとき | 2：重要性が高いと思えるとき |
| 3：やりがいを感じる時 | 4：周囲の協力が得られるとき |
| 5：上司や同僚が見守ってくれているとき | 6：園児のためになると思えるとき |
| 7：周囲の期待に応えられそうなとき | 8：その他（ |

ご協力ありがとうございました。

4 調査用紙の記入にあたって

(小・中・特別支援学校用)

- アンケートは、あてはまる番号に○をつけてください。また、その他については、()の中に、ご記入ください。
- 問2 年齢については、平成23年4月1日現在でお答えください。
- 問5 学級担任の有無については、副担任の場合も(1:担任をしている)に○をつけてください。
- 「6月から7月(夏季休業中は除く)までのこと」とは、6月から7月20日終業式までの通常の勤務のことをさします。6月からの勤務状況を振り返って、ご記入ください。
- 問9 勤務時間については、4月当初、各学校長により割り振られた時間をさします。
- 問10 問12 仕事の内容の「8:校務分掌に係る業務」については、「10:就学援助事務 11:学校給食費関係事務 12:学校徴収金事務」以外の業務と考えてください。
- 問11 休日(勤務を要しない日)とは、土曜日・日曜日・祝日をさします。なお、行事等で勤務日となった場合は、振り替え休日の日をさします。
- 問15 仕事の内容については、以下の表を参考にしてください。

1	会議・打合せ	職員会議、学年会、教科部会、各種部会など
2	校務分掌に係る業務	担当する校務分掌の業務(17、18、19を除く。)
3	個に応じた学習指導	正規の授業時間以外に行われる学習指導(個別指導、補習指導など)
4	児童・生徒指導	個別の面談、進路指導、生活相談など
5	特別な支援を要する児童生徒への対応	カウンセリング、課題を抱えた児童生徒の指導など
6	学校行事の準備	修学旅行、遠足、学芸会、発表会、入学式、卒業式、始業式、終業式などの学校行事の準備など
7	出張、研修会等への参加(資料準備を含む)	公務としての研修・出張など
8	資料や報告書の作成	資料・文書(調査統計、市教委への報告書など)
9	ICT機器活用推進	データの共有化や電子黒板の活用推進など
10	提出物や成績の処理	成績処理にかかわる事務、試験問題の作成、採点、評価、提出物の確認・コメント記入、通知表作成、調査書作成、指導要録作成など
11	教材研究・授業準備	教材研究、教材作成、授業打合せ、体験学習の準備など
12	保護者への対応	保護者会、学級懇談会、保護者との面談や電話連絡、家庭訪問など
13	部活動の指導	部活動の指導、対外試合の引率(引率の移動時間を含む)など
14	学年・学級経営	学級活動、連絡帳への記入、学年通信の作成、名簿作成、教室掲示物の作成、備品整理など
15	作品募集に係る業務	各種作品募集の呼びかけ、審査、作品応募事務など
16	学校評価、教職員評価	学校評価アンケートの作成、集計、学校関係者評価のまとめ、自己評価シートの作成、面談など
17	就学援助事務	就学援助に係る事務など
18	学校給食費関係事務	給食費に係る事務、集金事務など
19	学校徴収金事務	学校諸費(補助教材費、遠足代、野外教育費、修学旅行費等)に係る事務、集金事務など